WASON HQ 1 .J6 Z74+

Feb. 1 92 no. 33

女學雜誌

第三百三號
明治二十五年二月六日發兌

震地傳道隊員名古屋演説會壯士僧侶喧囂の細報實況。

ヂスレーリ賢夫人

誰か梅花を挿む

厭世詩家と女性

慨歎す可き怪通信

熊本縣に於ける知事が處置及び福島縣會に於ける不德議員の所行を明記す。

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 303. FEBRUARY 6TH. 1892.

EDITORIAL:—A Spray of Flower in the Quiver of the Warrior; Japanese on Earthquake; Some Unworthy Candidates at the General Election; Disbanding of the "Shinchi-Den-Do-Tai" (The Evangelical Band in the District of Earthquake Disaster); The New President for the W.C.T.U; in Tokyo.

LEADING ARTICLE:—Woman and Pessimistic Poets.

THOUGHTS AND FANCIES:—The Home that used to be Ours. (Kwa-Ho).

MISCELLANIES:—A Question of Chibalic Spirit. Resolutions of the International Peace association.

VIGILANCE:—Abolition of Public Vice in Fukushima Perf'; Governer of Kumamoto Perf' and Kumamoto Eigakko.

CONTRIBUTED:—The Literaly World of 25th. Year of Meiji:

TOPICS OF THE DAY.

第三百三號目次

●社説　誰か梅花を挿むものぞ○塵芥の上に立つ候補者○地震尚ほ震ふべし○大教師○震地傳道隊解隊式○婦人矯風會

●論説　厭世詩歌と女性（透谷隱士）

●隨感　故家（花圃）

●雜録　極めて忌はしき疑題（しのぶ）○万國平和協會議決○讀書片々

●警告　福嶋縣會に於る廢娼議決取消に關する怪報○熊本縣知事が熊本英學校に對する處置

●寄書　明治二十五年の文學

●時事　磊落と愛嬌○政治家の儉約○小内亂○文學界○國會雜局の由來○怪通信二則。

●女報

●震地傳道隊報告

THE ESTABLISHMENT OF AN ORPHAN GIRLS' SCHOOL.

AMONG the many noble acts of benevolence prompted by the disastrous catastrophe of October 28th, none deserves more praise than that of Mr. Osuga Ryoichi, Principal of the Girls' School at Tsukiji. A genuine Christian, and a self-sacrificing educator, he was so deeply moved by the sight of the helpless orphan girls of the earthquake districts that he decided to undertake their bringing up and education by the establishment of a special school. For this purpose he has sacrificed all his property amounting to a little more than 1,000 *yen*. For the rest, he doubtless thinks, like Mr. Ishii of the Okayama Orphanage, that faith and prayer will bring money whenever it is very badly needed. The *Jogaku Zasshi* (Woman's Magazine) mentions some facts which throw a most interesting light upon the character of Mr. Osuga. Living at Oji, he has for several years taught in the Girls' School (the Rikkyo Jo-Gakko), Tsukiji, making the whole distance of more than 7 miles on foot at the nominal salary of a little over 10 *yen* per month, half of which he contributed to the maintenance of the institution. It was principally in recognition of his zeal and self devotion that Bishop Hare gave him *carte blanche* in the management of the school. The institution has since become more prosperous, it is alleged, and everything is in as satisfactory a state as can be desired. Mr. Osuga intends to live with the orphan children and bring them up according to his own standard of education. In this task he will be entirely free from the hampering influence of parents, which, according to the *Jogaku*, is the principal obstacle to modern female education in Japan. The parents are said to be in most cases hopelessly undecided as to the proper educational standard for their girls. Their principal object in educating them being to contrive advantageous marriages, it is not wonderful that they should be the slaves of the fashion of the moment. With every change of fashion their ideas of female education also change, the result being entire spoiling of their girls and cruel disappointment to every true educator. Under such circumstances the success of the new institution about to be established by Mr. Osuga may have useful effects upon the question of female education. Several of his pupils at the Girls' School are said to have declared a desire to assist their Principal in his new and responsible undertaking. The *Jogaku* thinks that the publication of these facts may give pain to the modest and self-effacing educator of Tsukiji, but the interests of benevolence forbid silence.

Digitized by Google | Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第三百三號
明治二十五年二月六日發兌

社説

○誰か梅花を挿はむものぞ

撰ばれんとて忙はしく、心荒れ膽据はらざる殿原、少こしく思を沈めて、古しへの武士に鑑み玉ひて可なり。丈夫は、事に拘らひて德を碎くとなし、忙中閑日月を存し、風雨の后ち自づから快然たるものありき。敵を追ふて、歌を詠み、敵を顧みて、歌に應ふ、落花鎧の袖に振りかゝり、行雁、空をかすめて飛べば、吟膓禁ず可らず、何をもて馬蹄の屍骨に埋もれ、戎衣の鮮血に腥さきを思はんや。一族狂奔して、西海に溺るゝとき、深夜人靜けき折の名吟一首を忘るゝ能はず、安んぞ都に敵の充滿するを懼れんや。母は遠く、友は無し、戰ひ利あらず、一期翌る朝たと定まれる夜、明月に向つて笛を弄すれば、何んぞ敵の耳を傾むくるを憂へん。梅花は箙より散つて流血に漂よふ、大刀を揮ふの勇士遂に一句なかる可らず。夫れ、古しへの武士は情けあり、たとひ終生を戰鬪の中に送るとも、綽々たる閑日月、春を回して之に其温光を照らす、彼等は今の忙々促々たる輩と同じからず。

二月十五日近づきぬ、諸公須からく爐を圍み、釜を沸し、清坐端然として一杯の茶を喫すべし。俗氣紛々たる世上の邪氣幾分か減ぜん、而して后ち投票開函場裏に臨み來れ。吾人は諸公が、屐を折るの聲も、顔を蒼くするの色をも聞見せんとを欲せず。

○塵芥の上に立つ候補者

官黨、民黨。官黨の中の、薩派、長派、曖昧派。民黨の中の、自由派、改進派、國民派、無名派など、夫々の長所あり。短所あり、一概に黨派の名によりて、撰定を定むるは不可なり。宜しく其人物を見るべし。然れども、此に尤とも確實明白なるは、斷じて不德義ある議員を撰擧す可らず、亦た不德義なる連中の後ろ楯に據守する人物を撰擧す可らざる也。

奇怪なる法律により、今の日本國に於ては、醜業者尚ほ撰擧權を所有せり。法律によりて之を所有する間は、不得止、之を使用するとを許さゞる可らず。然れども、社會改良論者は決して之を默々に附す可らざる也。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

例せば、府下淺草區に於て、醜業者の助援を以て撰ばれんとする高梨哲四郎氏の如きに對しては、廢娼論者鼓を打つて之を責めざる可らず。府下廢娼會員に其計畫ありと聞き、深く之を祝す。

願わくは、全國各地の廢娼論者、社會改良論者、ことに正義矯風上の青年諸君、其の神聖なる父母の郷に於て、醜業者などの助勢を以て撰出せらるゝ、卑劣男子をして、堂々たる日本の國士たらしむること勿れ。

○地震尙ほ震ふべし

驚ろく可き大地震ありてより、日數未だ七十五日を越へず、而して風評既に消えなんとす。岐阜縣下救濟の方未だ立たず、窮民路上に泣く、而して國民之を聽かず。天、災變を起し、一大警戒を下す、當時少か心を動かしたるものも、今や殆んど忘れんとす。英國スペクテートルの記者云く、日本人が地震に對するの感覺斯の如くば、彼等が當世の大國民の間に列するに至る迄には、是非とも今一回大洗禮を受けざる可らずと。吾人頗ぶる痛恨の念を懐いて、止むことを得ず、此一評に同ぜんとす。あゝ、同胞の忘るゝこと何んぞ夫れ如此く早きや。熱感せず、酷思せず、冷温乎として淡く泣き、輕く痛むものは、古來未曾て大國民たることを得ざりき。

○大敎師

汝等、人に敎ゆるものとなる莫れ、と。是れ、或意味に於て千古の至敎なり。今や、先生視さるゝもの少なく、而して自から先生を以て許すもの頗ぶる多し。福音新報記者之に慨し、今の自稱松蔭先生を冷罵し去りぬ。吾人も亦た多少の同感なきにあらず。凡そ、今の大弊は、士に確信堅守する所ろなきにあり、故に幸にして先生を以て自任するが如き偉人物の生ぜんには、吾人は寧ろ之を邦家の爲に慶せんと欲す。然れども、世上往々、己れ未だ自から信ぜずして而も人より信ぜられんとし、己未だ自から先生たるの資格あらずと知り、而も人の斯く待せんことを欲する輩あり。之を一大弊とす。

眞理は之を活かす所ろの人なかる可らず、殊に道德上の主義に至りては、人自から之を活現するにあらずば、遂に空文白語と彷彿たらん。故に、吾人は自信堅守して、敢て之に任ずるの人出でんことを祈るや久し、如此き人は自から先生をもて許すも可なり、先覺、後覺を醒まさずば、夫れ人道を如何に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

せん。但だ、要ふべきは、自信堅守の人なきにあり。

○震地傳道隊解隊

震災地の慘状を聞き、心あるもの誰か慟哭せざらん。奮つて義捐し、更に奮つて義捐金品を募集せるは、當に然るべきことなりとす。而して此際、天の警戒に鑑がみ、薄命者の靈魂に思ひ至り、眇乎たる一婦人會、率先して震地の傳道に着眼し、些々たる所有金を基ひとし、天の賜ものを確信し、奮つて之に應ずるの傳道者を派遣したるは、更に一層感謝すべきの決心なりき。

傳道隊組織されてより、凡そ二ケ月、前后奮つて震地に臨みたる隊員、男女合せて七名（湯谷磋一郎、藤井米八郎、松田順平、佐々木笑受郎、小野坦、中村友吉、玉生くに。外に、三澤默二君も助力せられぬ）、傳道の地、愛岐兩縣下に汎ねく、義捐金二百餘圓。最初芥子種の如くなりし信仰、天助によりて、大ひある惠を蒙むりたり。

吾人が、初めより此隊に切なる同情を表したるものは、單に震地の傳道の爲のみにあらず、かゝる天變あるに際し、國民靈性の上に警戒し、道を信ずるもの皆な傳道心を奮ひ起すべしと覺悟したれば也。ゆへにたとひ、唯一人の傳道者を派出し、唯一日の傳道を爲すとも可なり、此奮發の心即はち彼我に於る救ひの種子なりと信じたり。然るに、好果豫察に過ぎ、此如き美なる結末を奏するに至りたるは、邦家の爲め、深く慶すべきこと也。

二月三日、隊員名古屋に於ける最后の快戰を畢りて歸郷す、今や其の解隊式あらんとするを聞き、恭しく祝し、謹しみて感謝す。

○婦人矯風會

茸の如く生え出で、草の如く枯るゝは、我國近時、多くの結社集會の常態なるに、明治十八年來五星霜を經、折に觸れて臨機の運動勇ましく、亦斷えず社會改良、女德伸張の事などに力を盡すは、東京婦人矯風會なるべし。女性果して團結力なき乎、識者はこの實證を見て大ひに反慮せざる可らず。扨て、舊會頭矢嶋かぢ子、病の稍や慰しによりて、此度び職に復し、義にして熱實なる、前の風俗部長、海老名りん子、副會頭となりて、之に助力せらるゝことあれり。吾人は少なからぬ情意を以て熱く祝し、從來の成行に預じめ感謝す。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

論説

厭世詩家と女性（上）

透谷隱者

戀愛は人世の秘鑰なり、戀愛ありて後人世あり、戀愛を抽き去りたらむには人生何の色味かあらむ、然るに尤も多く人世を觀じ、尤も多く人世の秘奥を究むるといふ詩人なる怪物の尤も多く戀愛に罪業を作るは抑も如何なる理ぞ。古往今來詩家の戀愛に失する者擧けて數ふ可からず、遂に女性をして嫁して詩家の妻となるを戒しむるに至らしめたり、詩家豈無情の動物ならむ、否其濃情なる事常人に幾倍する事著るし、然るに綢繆終りを全ふせざる者尠きは何故ぞ。ギヨオテの鬼才を以て後人をして彼の頭は黄金彼の心は是れ鉛なりと言はしめしも其戀愛に對する節操全からざりければなり。バイロンの嵩峻を以ても彼の貞淑寡言の良妻をして狂人と疑はしめ、去つて以太利に飄泊するに及んでは妻ある者女ある者をしてバイロンの出入を嚴にせしめしが如き。或はシエレイの合歡未だ久しからざるに妻は去つて自ら殺し、郞も亦た天命を全ふせざりしが如き。彼の高嚴莊重なるミルトンまでも一度は此轍を履んとし、嶢峭豪逸なるカーライルさへ死後に遺筆を梓するに至りて合歡團欒ならざりし醜を發見せられぬ。其他マルロー、ベン、ジヨンソン以下を數へなば誰か詩人の妻たるを怖れぬ者のあるべき。

思想と戀愛とは仇讐なるか、安んぞ知らむ戀愛は思想を高潔ならしむる嫻母なるを。エマルソン言へる事あり、尤も冷淡なる哲學者と雖戀愛の猛勢に驅られて逍遙徘徊せし少壯なりし時の靈魂が負ふたる債を濟す事能はずと。戀愛は各人の胸裡に一墨痕を印して外には見ゆ可からざるも終生抹する事能はざる者となすの奇跡なり。然れども戀愛は一見して卑陋暗黑なるが如くに其實性の卑陋暗黑なる者にあらず。戀愛を有せざる者は春來ぬ間の樹立の如く何となく物寂しき位地に立つ者なり、而して各人各個に人生の奧義の一端に入るを得るは戀愛の時期を通過しての後なるべし。夫れ戀愛は透明にして美の眞を貫ぬく。戀愛あらざる内は社會は一個の他人なるが如くに頓着あらず、戀愛ある後は物のあはれ風物の光景何となく假を去つて實に就き隣家より我家に移るが如く覺ゆ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

るなれ。

蓋し人は生れながらにして理性を有し希望を蓄へ現在に甘んぜざる性質あるなり。社會の因緣に苦しめられず眞直に伸びたる小兒は本來の想世界に生長し實世界を知らざる者のなり。然れども生活の一代に實世界と密接し抱合せられざる者はなけむ、必ずや其想世界即ち無邪氣の世界と實世界即ち浮世又は娑婆と稱する者と相爭ひ相睨む時期に達するを免れず。實世界は强大なる勢力なり想世界は社會の不調子を知らざる中にこそ成立すべけれ既に浮世の刺衝に當りたる上は好しや苦戰搏闘するとても遂には弓折れ箭盡くるの非運を招くに至るこそ理の數なれ。此時想世界の敗將氣沮み心疲れて何物をか得て滿足を求めんとす、勞力義務等は實世界の遊軍にして常に想世界を覘ふ者、其他百般の事物彼に迫つて劍鎗相接爾す、彼を援くる者彼を滿足せしむる者果して何物とかなす、曰く戀愛なり、美人を天の一方に思求し展轉反側する者實に此際に起るなり。生理上にて男性なるが故に女性を慕ひ女性なるが故に男性を慕ふのみとするは人間の價格を禽獸の位地に遷す者あり、春心の悖發すると同時に戀愛を生ずると言ふは古來似非小說家の人生を卑しみて己れの卑陋なる理想の中に縮少したる毒弊あり、戀愛豈單純なる思慕ならんや、想世界と實世界との爭戰より想世界の敗將をして立籠らしむる牙城となるは即ち戀愛なり。

此戀愛あればこそ理性ある人間は悉く惱死せざるなれ、此戀愛あればこそ實世界に乘入る慾望を惹起するなれ。コレリッヂがロメオ、エンド、ジユリエツトを評する中にロメオの戀愛を以て彼自身の意匠を戀愛せし者となし第一の愛婦なる「ロザリン」は自身の意匠の假物なりと論ぜるは蓋し多くの愛情を獸慾視して實性を見究めざる作家を誡しむるに足る可し。戀愛は剛腹なるバイロンを泣かせしと言ふ微妙なる音樂の境を越へて廣がれり。戀愛は細微なる美術家と稱へられたるギヨオテが企る事能はざる純潔なる寶玉なり。彼の雄邁にして輭優を兼ねたるダンテをして高天卑上に絕叫せしめたるも其最大誘因は戀愛なり。彼の痛烈悲酸なる生涯を終りたるスウイフトも戀愛に數度の敗れを取りたればこそ彼の如くにはなりけれ。嗚呼戀愛よ汝は斯くも權勢ある者ながら爾の哺養し爾の切に需めらるゝ詩家の爲に虐遇する所となる事多きは

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

如何に慨歎すべき事ならずや。

女性を冷罵する事東西厭世家の平なり。釋氏も力を籠めて女人を罵り沙翁も往々女人に關して嫌らぬ語氣を吐けり。我露伴子の一口劍を草するや巧に阿蘭を作りて作家の哲學思想を發揮し更に風流悟に於て其解脱を説きたる所余の尤も服する所なり。蓋し女性は感情的の動物なり詩家も亦た男性中の女性と言ふ可き程に感情に富める者なり。深夜火器を弄して閨中の人を愕かせしバイロン必らずしも狂人たりしにあらざる可し、蓋し女性は或意味に於て甚だ偏狹頑迷なる者なり而して詩家も亦た、或點より觀れば之に似たる所あるを免れず。蓋し女性は優美纎細なる者なり、而して詩家も亦た其思想に於ては優美纎細を常とする者なり、豪逸雄壯なる詩句を迸出する時に於ても詩家は優美を旨とするものなるを以て自ら女性に似たるところあるを免れず。其他生理學上に於て詳に詩家の性情を撿察すれば神經質なるところ執着あるところ等類同の個條蓋し數ふるに遑あらざる可し。是等の類同なる諸點あるが故に同性相忌むところよりして詩家は遂に調繆を全ふする事能はざる者なるか。夫れ或は然らむ、然れども余は別に説あり請ふ識者に問はむ。

合歡調繆を全ふせざるもの詩家の常ながら特に厭世詩家に多きを見て思ふ所なり。抑も人間の生涯に思想なる者の發萌し來るより善美を希ふて醜惡を忌むは自然の理なり、而して世に熟せず世の奥に貫かぬ心には人世の不調子不都合を見初むる時に初理想の甚だ齟齬せるを感じ實世界の風物何となく人をして慘憺たらしむ。智識と經驗とが相敵視し妄想と實想とが相爭戰する少年の頃に浮世を怪訝し厭嫌するの情起り易きは至當の理なりと言ふ可し。人生ながらにして義務を知るものならず、人生れながらに德義を知るものならず、義務も德義も雙對的の者にして社會を透視したる後「己れ」を明見したるの後に始めて知り得可き者にして、義務德義を辨ぜざる純樸なる少年の思想が、始めて復雜解し難き社會の秘奥に接する時に誰れか能く厭世思想を胎生せざるを得んや。誠信は以て厭世思想にかつ事を得べし然れども誠信なる者は眞に難事にして、ポーロの如き大聖すら嗚呼われ罪人なるかなと嘆じたる事ある程なれば厭世の眞相を知りたる人にしてこれに勝つほどの誠信あらん人は凡俗ならざる可し。ポープの樂天

主義の如きは蓋し所謂解脱したる樂天にして其嘗つて唱ひし詞句に「凡ての自然は妙術なれば汝の能く解する所ならじ凡ての偶事は指呼に從ふものにして汝の關する所ならじ、凡ての不和は遂に調和ある事も汝が會し得る所ならじ、一部に惡と思はるゝ所のものは全部に善、傲慢に訌ふ勿れ謬理に惑はさるゝ勿れ、凡そ一眞理の透明なるあらば其の如何なる者なるを問はず必らず善なるを疑ふ勿れ。」と云ふ一節あり。蓋し斯の如きは人世の壓威を自力を以て排斥したりと思惟する者にして抑も經驗の結果なり。凡そ經驗なきの思想には斯の如き解脱思ひも寄らぬ事なり。

偖て誠信の以て厭世に勝つところなく經驗の以て厭世を破るところなき純一なる理想を有てる少壯者流の眼中には實世界の現象悉く假僞なるが如くに見ゆ可きか、曰く否、中に一物の假僞ならず見ゆる者あり、誠實忠信「死」も奪ふ可らずと見ゆる者あり、何ぞや曰く戀愛なり、情は鬪爭すべき質を以て生れたる元素なれども其戀愛の域に進む時は全然平和調美の者となり、知らず知らず一女性の中に圓滿を畫かしむ情人相對する時は天地に强敵なく、不平も不融和も悉く其席を開きて眞美の天使をして代て坐せしむ。少き思想の實世界の蹂躙する所となる事多し、特に所謂詩家なる者の想像的腦髓の盛壯なる時きに、實世界の攻擊に堪へざるが如き觀あるは、止むを得ざるの事實なり、況んや沈痛凄惻人生を穢土なりとのみ觀ずる厭世家の境界に於てをや。曷んぞ戀愛なる牙城に據る事の多からざるを得んや、曷んぞ戀愛なる者を其實物よりも重大して見る事なきを得んや。戀愛は現在のみならずして一分は希望に屬する者なり、即ち身方となり慰勞者となり、半身となるの希望を生ぜしむる者なり。夫れ厭世家は此世に屬する者とし言はゞ名譽にもあれ利得にもあれ王者の玉冠にもあれ鐵道王の富榮にもあれ一の希望を置くところあらざるなり、故にこの世の希望と厭世家とは氷炭相容れざるの中なる可し。然るに戀愛なる一物のみは能く彼の厭世家の呻吟する胸奥に忍び入る秘訣を有し奇しくも彼をして多少の希望を起さしむる者なり。情の性は沈靜なるを得ざる者なり、其の一たび入るや人の心を攪亂するを以て常とす、況してや平生激昂しやすき厭世家の想像はこの誠實なる戀愛に遭ひて脆くも咄嗟の間に奇異なる魔力に打ち勝たれ、根もなき希望を醸

し來り全心を擧げて情の奴とするは見易き道理なり。

戀愛は一たび我を犧牲にすると同時に我れなる「己れ」を寫し出す明鏡なり。男女相愛して後始めて社界の眞相を知る、細小なる昆蟲も全く孤立して己が自由に働かず、人間の相集つて社界を爲すや相倚托し相抱擁するによりて始めて社界なる者を建成し維持する事を得るの理も相愛なる第一階を登つて始めて之を知るを得るなれ。獨り棲む中は社界の一分子なる要素全く成立せず、雙個相合して始めて社界の一分子となり、社界に對する己れをば明らかに見る事を得るなり。

震地傳道隊解隊式

主會　婦人矯風會頭　矢島かぢ子
奏樂唱歌　女子學院生徒

震地傳道の所感　小野坦
天災と國家　巖本善治
震地傳道隊の經歷及希望　湯谷磋一郎
名古屋大演說會の實況　松田順平
震災地の孤兒　藤井米八郎
震災地の看病及治療　中村友吉

右當二月六日午後二時より中六番町會堂にて執行來場無料

文學

美辭は眞理を包む美しき衣なり。

大橋訥庵夫人巻子の書翰

武市南城

野州宇都宮の人岡田阮亭、名は眞吾なる者、幕末の際、王事に勤勞し大橋順藏、廣田精一等と友善し、順藏、精一等の厄あるや辭、眞吾に連り閉門を命せらるゝと云ふ、今茲壬辰孟春、余宇都宮に遊び、始めて眞吾の子某と相知る、因て器は其の平生を娟くすを得たり、此の手翰一篇、是れ訥庵先生沒するの後、未亡人まき子の阮亭に酬ひたるもの也、書中黒鯛の綱にかゝると云ひ、水ましの折と云ひ奇警なる諧謔的隱語を弄して、巧に當時の危機を穿つ、的是れ好箇の女丈夫なり、文藻に至ても亦未た見る可きもの無くんばあらす、即ち擧て女學雜誌に寄す、廿八日南城識す。

一筆御返事申上候追々暖氣に相成いよ／＼御障もなう御機嫌よう入らせられ候御事いか計り御目出度御悅ひ申上候過る十四日定六樣御出府にて御手紙持參いたしくれ慥に相とゝき難有拜見申上候外一封は則當人へ相わたし申候扨世の中もよほ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ど變し候やうには候得とも中々いまだ心の底よりなをり候事には無之全く京師の御力にてうはべ計りの事に候間あまり感心はいたされずと男どもは申居候、誠に只今は一條にかゝり合候人々も殘り少なに相成其折りの事など語りしのばんものもなく心ほそき事いはん方なし何卒御前樣御兩君早う晴天御出かけに相成事とそれのみ〳〵願居候、時霜月廿三日、黑鯛あみにかゝり候ひしが御存の通り橋の一條にはあらでやはり先年水ましの折の一條にて候間あまり風味もよろしからず覺候、山の木は小枝なら一本をられもせず繁り居候まゝ、かねて此木を切り度うけ合居候、樵夫御座候得共今に時を得ず空しく過し居候處この木これも舊冬花の方へ出候間誠に倘更遺憾にたへ不申候、去乍天誅逆關東へも出來折々は愉快とか何とか思ふ折々も御座候、去暮と倘春早々の天誅の事は御前樣方へも右の書附御覧に入れ候やう寺町まで遣し候間定めしまはり候て御承知の事と存上候、扨又近頃よみ出候歌もあらばと御仰下され、ほんの心やりにおもひを陳候計りのうたやら何やら分らぬものに候得ども御心安さのまゝに、とりもつゝまず御つれ〳〵の御わらひ草にもと仰のまゝ認め御目にかけ申上候御前樣も大分此頃御歌御出來のよし廣田樣(精一)より一寸承り候おなしくは御交易に頂戴いたし度存上候先は何も〳〵御返事までに早々申上殘し候かしく

倘々なき人(訥庵先生)が懷舊の歌取集め度候得ども、とんとあつまり不申唐うたはありても私にはとんとちんぷんかんにて分り不申候間何卒御兩君の御うた、いたゞき度願上候、過る十二日墓參の折手向に

玉あつる人もつどひて世のさまを
　こけのむしろにしきしのふらん

これも出たらめ御一笑可被下候

正月廿八日　　　　卷

遊たか樣

大和の華

万葉時代　（下）

讀人知らず

あし引の山にも野にもみかり人
さつ矢たばさみ亂れたる見ゆ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

山部赤人

大丈夫は御獵にたゝし乙女等は
　赤裳すそびく、淸き濱邊を。

傷惜寧樂京荒墟作歌　讀人不知

世の中を常なきものといまぞ知る、
　ならの都のうつろふ見れば。

縣犬養宿禰持男

紅葉葉をちらまくをしみ手折り來て、
　こよひかざしつ、何をか思はん。

大伴宿禰

世の中の常なきとは知るらんを、
　心つくすな大丈夫にして。

うら〳〵に、てれる春日に雲雀がり
　こゝろ悲しやひとりし思へば。

悲寧樂故京郷作　讀人不知

八隅しゝ、わが大君の高知らす、大和の國は、すめろぎの、神の御代より、しきませる、國にしあれば、あれまさん、御子のつぎ〳〵、天の下、知らしまさんと、八百万、千歳をかねて、定めけん、ならの都は、かぎろひの、春にしなれば、春日山、三笠の野邊に、櫻花、木のくれがくれ、かほどりは、間なくしばなき、露霜の、秋去り來れば、射駒山、飛火が岡に、萩の枝を、しがらみちらし、狹男衣は、妻呼びとよめ、山見れば、山を見かはし、里見れば、里も住よし、武士の、八十ともの緒を、打ちはへて、里並しけば、天地の、よりあひのきはみ、万づ代に、榮え行んと、思ひにし、大宮すらを、たのめりし、ならの都は、新ら代の、ことにしあれば、大君の、引きのまに〳〵、春花のうつろひかはり、村鳥の朝たちゆけば、さすたけの、大宮人のふみならし、かよひし道は、馬も行かず、人しもゆかねば、荒にけるかも。

かへし

立かはり舊き都となりぬれば、
　道の芝草ながく生にけり。

○讃久邇新京　作者不知

山高く川の瀨きよし、百世まで、
　神し見ゆかん、大宮どころ。

隨感

故宅

花圃

この日頃、心あはたゞしうて、思へる事ども、得はたさゞりしが、今日はいさゝかの暇を得て、朝より心ざす方へ行ぬ。この跡はおのれが五六才の時父静岡より材木とりよせてたてられし家の向ふなり、いつもこの前過る時はなつかしさ、かなしさやる方なく胸とゞろくが習ひなれど、けふはたことに胸つぶるゝ斗おどろきし事あり、こぞのくれにこの前過しに、ありしにはにず、梅林も茶畠も地を裂かれてせまう。むづかしげに成はてつれど、よに名ある某の名、表札にかゝげられ車のわだちの地にしるきに馬車廻しの芝生、うるはしう刈られて、肥たる犬のはしりたはむるゝがあけわたしたる門より見えしやうなりしをいかにぞや、けふは閉ざしたる門の戸かたぶきかゝりてかしやてふ札よこざまにはられぬ、實に思ひ出ればこゝのあるじ、ある地方にて失せられぬと聞しることありしが、さればこそかくは、ぬしなきやどゝ成はてつらめしか思ひ出るまゝに、人氣なきがうれしく、心安うおもはれて、門のちかくにすゝみ、かいまみするにつけて、胸にたゝへ、しばしも忘れざる事ども、目の前にぞうかびにける。かのみゆる茶畠には、白き浴衣上へきおほひて、赤きたすきかけたる女共のたれかれ、むくつけて腕などあらはに出して茶などつみてたふとき時を費やすなん惜きといひあへりし男共のたれかれ、かの木陰に見るやうに思はるれどその中のたれかれもいまだいとわかかりしに、なき數に入しが多かり、これの梅林には椅子取出でゝ短冊におぼつかなき歌ども、かきながし兄君と共に梅の枝につけて遊び、又さまざまのもの手づから料理して兩親を客とし、家の人々をも呼つどへ兄とおのれ、おとなめかしたるあるじまふけせし事の樂かりしなど、夏の夕、塀と同じたかさにひろき露臺まふけさせてこゝに夜更る迄、二人しておどりくるひたる、こはみなみゆるまにまに思ひ出しなり、見ざる奥庭の噴井つき山のたゞずまゐ、大木とたれもおとろきし黐の木の片枝かれしはいかにかしけん、垣のもとの手植の梅、母君のめで玉ひし李の木、愛せし犬のさゝやかなる墓、筍多く出る竹林、父君の人ことにほこりしめし玉ひし黒柿の長き縁側、神代杉の三枚天井、光なく塵芥にう

もれはてつらん、庭のこのみも家のたくみも、兄君のためとまふけられ、歸朝したまひし曉にはとのみ、のたまはせしも外國の水泡と、かひなく兄君うせ給ひしのち、破履すつるやうにぞ父君他人にゆづり給ひぬ、この家よ、なぞもかくさちなき事のかさなれりけるぞ、兄といひ、かのありし主人といひ、ともに旅中に命をおへしいまはの際迄、古郷の空なつかしう、こゝにある人々の事共おもひはなれざりしならん、その念おのがかなしみ、おのが兩親の今菟裘に老を養なひ給ふにつけても、さすがに絶ずわすられぬ恨、かのあるじのつま子の歎きなど今もかの家の棟をはなれぬやうにおもはれ、二ッ三ッ咲出し梅のほゝゑみも、もの淋しく、冬かれの松枯葉殘れる柳のうちまねくなどすさまじく、思はれ、かなしさやる方なくて、涙ぬぐふ時門の中にものゝ唸くこゑ聞ゆ、うちみればいぶかしげにうちまもりて、犬の力なくほゆるなり、あれあはれ、かのみつるにやあらんとよくとこなたざまよりよべど、たが爲に門守りてか、ぬしなき宿とはしらず、一人殘されしともしらで、なほ齒あらはして、わが方をまもる、おのれはなほよび近づけばやとする折しも、おどろくしう

隣れる家の門より引出し馬車におどろきて見かへれば上なるは、父君の親しき友にてこの家にも常にきたられし人なりけり、まぶかにかぶりし頭巾に、かなたにはしられざりしがまたゝく間に過し車の上にからくみとめしは、口の下の鬚、帽子をもるゝ髮の其人ともなく白く成はてられしなり、嗚呼かの人もいたう老ひ給ひし事よとおぼしは又そのあたり、さり得ざりき

その昔兄出立せん二三日前この梅林に共に遊びて

もろ共に梅見ん日數すくなきを
けふもゆふべになりにけるかな

けふこのまへを過その日の事を思ひ出て

人氣なきやとにゝほへる梅のはな
まことに春を忘れさりけれ

香をたにも袂にとめて古郷の
うめ咲にきとはゝにかたらむ

史傳

ビーコンスヒールドの妻

島の春

（一）

賢女マリー、アーンは「バンプフォード、スペーク」のジヨン、ビデー、エバンスの一女なり曾てひとたびウインドハム、レウィスに嫁せしがレウィス病沒したる後千八百三十九年先夫の政友ビーコンスヒールド（通稱ベンジヤミン、ヂスレーリ）の妻となりぬ。

是より先千八百三十七年六月王ウイルヤム四世薨れ給ひたれば例により皇嗣即位を折となして議員總選擧を行ひたりき猶太の香寧兒ども〳〵この總選擧を汐として其騰天の氣をぞ吐きにける其頃ヂスレーリの相携へて政壇に上りしは「ヒユーエンデン、メノア」（名高き屋舍）のウインドハム、レウィスなり思ひきや後日其妻女と「メノア」とを合せて共に其政友の手にうつらむとは。

ヂスレーリを「メノア」に導きしものはこの妻也豈それ世に得がたき「メノア」のみならむやヂスレーリが政界の浮沈にともなひしものはこの妻也豈それ政界の浮沈にともなひしのみならむやひたすら其夫を愛慕して夫と共に室家の樂を無限に酌みしものはこの妻也。

この名跡「ヒユーエンデン」の「メノア」は高く百四十頃の林園に聳えたる大厦にして是に登るときは一眸のうちにはるかなる山と川とを收め近くは「ヒユーエンデン」の古寺の鐘の音に過ぎにし「ノルマン」の曩昔をしのばしめむビーコンスヒールドが「ヒユーエンデン」に住みし間は聖日ごとにこの古寺に參して怠りしことなかりしといへり。

（二）

ビーコンスヒールドが其政界の運命を鑄むとするやこれが鉗壺なるものは常に其妻マリー、アーンなりき是故にビーコンスヒールドが一生の歴史とは卽ち其妻が經營の歴史にしてマリー、アーンが一生の傳奇とは其夫が慘憺の傳奇ならむヂスレーリが其政界の功勞を以て多く之を其妻に歸したりしもあながち彼が老猾の心よりは出でざりしなるべし。

アーン生れて才識に富みたりこれによりて其風雅の心に篤かりしは今更にいはず政界の運動に於てすら天稟の器量いちじ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るく見えたりアーンまた其夫を敬愛して措かず一夜議事院に政海の機魚を釣らなむと夫妻共に車馬を院の門前に馳せしおり車丁あやまりて車の扉をゝしアーンの纎指を傷けしに之を痛むことだに忘れけるとぞ噫これを痛むことを忘れしにはあらず夫を思ふの切なるより之に物思はせて議事院にての勝負に掛念する所あらしめじと覺悟せしゆへ也。

ヂスレーリ曾て小説「シビル」を編みし時そのおはりに記して妻なるアーンに送りし言葉

世の旅の碕嶇たるをいとはずしてわれとおもひを同ふしたるその尊き心に、すゞしき聲を以てわれを勵まし風雅のまことを以てこの巻を導けるそのめでたき人に、われは今この巻を送らなむ嗚呼吾妻はきびしき判者ありけりさはあれ完き婦なるかも。

(三)

千八百六十八年十二月保守黨大に敗れてビーコンスヒールドこゝに首相の印授を解きぬ彼が「ベルリン」の大會にあらはれて一喝のもとに歐洲の大局をゝさへ氣焔萬丈を吐きたることのめでたければと賜爵の内命ありし折とても難有き仰なるからに願くは之を吾妻に下し給はれかしとぞいひけるとかや是によりて妻はまづビーコンスヒールド侯爵夫人となり夫はもとのまゝなるベンヂヤミン、ヂスレーリにてありけり。

ロナルド、カワー卿かつて「ヒユーエンデン」の「メノア」にビーコンスヒールドを訪れたる折の其記事に、

拙者こと晝餐のまへ書室において御兩所に面會、あはれむべし老夫人(アーン)はかねて「ロンドン」にておん見受申せしとはうちかはり、みなりこそ正しくしておられとても是度はむづかしき御樣子也この日拙者等の外に招かれ候客人はマンナースの御夫婦のみにて有之候が晝餐の折は拙者老夫人の隣席に就き申し候主人は例のおかしげなる手振りと肩をふりうごかして四方八山の談話を致され候うちにも夫人のいたくおとろへたる御容躰に御心痛の模樣にて常にアーン〳〵と言葉をかけ居られ申し候客間はなか〳〵高尚に見受けられ壁はとく〳〵翠色なるうちにめでたき文をとりまぜたるなどきはめてゆかしく覺え申し候拙者主人にうちむかひて何故に丹青にても御掲げ無之やと相尋申し候ところ今に妻の肖像なり

ども揭げたき所存に候と申されしカワー卿またビーコンスヒールドを其病床におとづれし時の記にも左のごとくありたりしぞあはれなる、

其夜ヂスレーリ老人は御亡妻が生前のことどもくさ〴〵と語りいでられ、なかにも老の涙ながらにアーンは病苦になやみしことも少なからず左候へども亡妻余と婚して三十三年のあいだ余に不快のおもひを致させし振舞を見せしことあらざりしと申され候。

（四）

千八百七十二年十一月ビーコンスヒールド夫人は遂に亡きひとの數に入りぬヂスレーリはこゝに生涯の友をうしなひていたく憂鬱のこゝろに落ちしが四年の程を經て八月の中旬にいたり夫人のあとを追ひこれも同じく黄泉の客となれりけり、噫たがひに高齢にいたるまでかほどの契を結びしはそも〳〵いかなるえにしなりけむ。

警告

慨歎す可き怪通信二則

（其一）

福島縣會廢娼議決取消の元因

第一次會にて大多數にて廢娼に可決したる福島縣會が、第二第三合次會にて、無記名投票をもて前議決を取消したるに付き、注意すべき怪事實多しと聞き、其取調を委顧し置たる社友より左の確報ありたり。

昨臘參上の節御約束申置候福島縣會廢娼否決の義に付早速御報知可申上御約束の處彼是取調の爲め大に遲延致候此度漸く否決の由來を探知するを得たれば大畧を左に記し御覽に供し候。

縣會の書記にして武藤惠融、木村宇太郎と申二人あり武藤は存娼者木村は熱心なる廢娼者なり然るに此二人は固より特別懇意の間柄なるよし爲めに吾々同論者なる木村は此武藤を叩きて遂に左の次第を探知し得たり。

常置委員中嶋友八、秋山淸八なる者は共に會津人にして縣會中にても大に勢力を有せる人なり而して此中嶋は第一次會に於て廢娼贊成者となり秋山は存娼を唱へ互に論を異にすと雖も是又二人非常別懇の間柄のよし秋山は當町内の旅店油屋に滯在しおれり然る處又若松の貸坐敷取締人長瀨數馬なる者此處に來り又同く懇意柄とて右秋山と二人同宿せり此に於て長瀨は大に存娼の運動を成さんと先づ秋山を以て中嶋氏(一次會に贊成者)を說きない〳〵存娼に加擔せしめ然る後此等三人力を合せ原動力者となり議員中に奔走して遂に彼の否決に結果を來せしといふ又其運動費としては如何に使用せしかは不明なれ共惣に百五十圓程費せりと以て一次會と二次會との間に其運動せしを知る實に解を取るだにいまはしき事ながら止

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

むを得ざる事に有之候。

又閉會と成りし夜彼の武藤書記は當町内貸坐敷小布袋屋に登樓せし處不圖も增子市三郎及安積三郎(何れも一次會に贊成者)氏に出會せりと時に武藤曰く子等は常に廢娼を唱へながら今晩茲に來りて登樓し遊ぶとは何事ぞと問ひしに二人はメチヤクチヤなる事を言ひ其場をかきまぜたりと是等は實に怪しき事柄なり前記之事は總べて木村が武藤より聞き正せし事なり。

尙此外に醜なる事實として十二月二十三日の夜小澤樓(料理店)にて營業者二十余名相會して首尾よく好結果を遂げたりとて慰勞會を催し居るを鐸木三郎兵衛目黑重貞の二人用事ありて行き隣坐敷に於て聞きたりといふ如斯き不潔の議員集合して國家の一事を議す其結果知るべきなり默視するに忍びず何卒充分天下正義の士に訴へ其罪を問はれん事企望する所に御坐候。

尙本年は正義の旗をひるがいし普く縣下の同志と謀り今より充分なる用意をなし建白に演說に其他種々の方法を以て飽まで運動を成さんとの存念に有之候依而本月終りの水曜日には福嶋又は郡山邊に縣下各地之同志代表者相會して運動上之協議を成し置かんとて尙福嶋よりは鐸木三郎兵衛、和田壁、木村宇太郎の三氏出席する事に御坐候尙又本年は日本同盟廢娼會へも同盟を願ひ共に働きを致度事に候間何卒右之次第飯野吉三郎様も御話被下充分に御盡力被成下度奉懇願候先は右御依賴まで草々。

私立學校に對する熊本縣知事の命令

(其二)

肥後熊本に熊本英學校なるものあり純全たる私立學校にして高等普通學科を教授す邃に政黨に倚らず外人に依賴せず不羈獨立各〻犧牲と爲りて自由教育の發達を期し立憲日本帝國の基礎を築かんことを勵精し社員教師生徒倶に協力一致して着々事業の隆盛を期するものなるが去一月十一日の如きは米國哲學博士蔵原惟郭なる人を蘇格蘭士エヂンボロー大學より招聘して盛んなる校長就任式を擧行したり然るに當地保守派の機關と知られたる九州日々新聞外一二の新聞は同日此式場に於て教員奥村氏の爲したる演說の趣意を誤解せしものか但しは爲めにする所ありて然りしものか妄漫なる記事を掲げて誹毀中傷至らざる所なく遂には同校の名譽を損するの意思を表明したるを以て同校は教育主義の消長に係る所ありとて九州日々告訴の手續をなしたり先是熊本縣廳は亂暴なる此新聞の記事に關して同校々長を召喚し二三の質疑をなしたる末、奥村の演說は決して彼二三新聞の囂々たるが如くならずと同校長の答辨するにも係らず終には卒然左の命令を發したり

私立熊本英學校設立者
何　某

其校教員奥村禎次郞は解雇スベシ
右命令ス

明治二十五年一月廿五日
熊本縣知事　松　平　正　直

右に付同校は不取敢左の伺書を差出せり

教員解雇御命令に付伺

本月二十五日附ヲ以テ熊本英學校教員奥村禎次郞解雇ス可キ旨命令書ヲ發セラレ候處右ニ付左ノ件々相伺申候

一奥村禎次郞解雇ノ理由ハ何等ノ點ニ存シ候哉若クハ本月十一日本校長就任式ニ於テ爲シタル演說ヲ以テ勅語ニ違背シタルモノト認メラレタル儀ニ候哉

一右命令ハ如何ノ法令ニ遵據セラレタルモノニ候哉

右明白ナル御指令ヲ得度此段相伺候也

以上の事實は元より一地方の小事なるが如しと雖も縣知事たる者果して私立學校に對して斯る命令を發するの權限を有する者にや若し有する者とせば是實に全國私立學校の命運に關する由々敷大事なるを以て同校は飽迄明白なる指令を要求して止まざる決心なりと云ふ而して又其指令書に奥村氏の演說勅語に違背したりと謂ふが如きことあらば堂々天下に表白して普れく公論に訴ゆる筈なりと因に記す當日同氏演說の要領は博愛の點より立論して遂に世界万國平和の鉄鎖に依り各々私利を抛ち即或意味に於ては万邦親化四海皆兄弟たるに至らん故に本校も亦此主義を目前の小事より實行せんと欲して教員生徒校長聊かも城府を設けず互に相愛し相親み博愛の眼中反對者なく異主義者なく各々天職の存する所を尙び互に相踮け相磨かんことを希望するのみ云々と述へしに過ぎずと該校に關係ある人より通信ありたり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

雜錄

○極めて忌はしき疑題　しのぶ

「井筒女之助」の小説に、結末、姫を刺し殺すの趣向は、いと殘り惜し、何ゆゑ之を娶るの工夫にて結ばざりしやと申せしを、例の僻言と笑はん人もありしなるべし。之を解き明さんには、ちと快ちよからぬ理由を言わでは止みがたければとて、其折は默しぬ。然るに近頃ろ、信州山中に於ける慘酷なる爲行あり、取分け吾が姉妹の爲めに腸を斷つの思ひすれば、今は敢て一言せざる可らず。

夫れ、强姦は、此の大罪を犯す男子にこそ惡中の惡なれ。丈夫生れて此の極卑醜の事を爲す、恥辱何ものも及ばず、たとひ法律にて之を罰するとなしとするも、其人もはや男子として世に立つ可らず、堂々たる大丈夫は、如此き輩を其の同性者の一なりとし、認許すると能はじ。

左れど、此の辱かしめを受たる女性は、德義上毫も恥る所ろあらざる也。たゞ其肉力弱きがゆへに、憫れむべき獸行にあひぬ、たとへば山中狼に噛まれ、市外、病み犬に傷つけられたると異ならず。不憫至極なりと云へども、俯仰天地に恥る所ろなし。世人は之に同情を表し、切に慰さむべし、些さかも之に對して輕意ある可らず。かゝる薄命者を輕んずる人は、かの大罪人に類惡したる冷血無情の人たり。

然れど、蠻習の遺りとして、婦人を一種の寶物と見做し、之に指をさし、爪を立てたるは、宛がら寶物に傷つけたるが如しと考がへ、寶物の價値之が爲に滅ずと思ふ。而して、婦人も亦た節を失なへりと悲しむ。あゝかゝる男女が謂ふ所ろの貞節とは、尙ほ野蠻人が唱道する所ろの貞節に異ならず、文明人が高尙なる道德より言ふ所ろのものは此の如くあらず。

故に、辱かしめを受けたる可憐の婦人こそ、俠骨義氣ある大丈夫が、常に握手合約すべきの婦人なれ。然るに、餓狼病犬に噛まれたる女性を見て、之を助け慰さめんとはせず、反つて之に唾し、之を人外視す。而して云く吾は男達なりと。かかる男達は、野蠻人なり。

たゞ此僻見容易に去り難きを悲しむ。高潔なる女詩仙、ブラウニン夫人がアウロラ、レイにも尙ほ誤解せりと見ゆる趣向なきにあらず、安んぞ「井筒女之助」にのみ完きを責めん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

羅馬に於る萬國平和同盟會

千八百九十年十一月羅馬府に於て第三回萬國平和同盟會を開きたり是は初會を二年前巴里府にて開き次會を翌年倫敦府にて開きたるものなり同盟會の案内を諸國に傳へて招集の旨を言遣せしは羅馬の「シンヂック」なるが開會の七日間は「キャピトル」の議事院を會館に用ゐたり開會の當日は「シンヂック」生憎不快にて引籠りたれば羅馬收税官シグノル、ボナツキ代りて會を司り平和同盟會々長其傍にあり是日以太利國會議長シグノル、ビヤンケリも亦參會人のうちに見受けらるシグノル、ボナツキは先づ其國語を以て雄辯をふるひ歡迎の辭を述べ次で會長ボンギ四十五分間の演説をなしたり其語中に

誰か基督の血肉を以て之を「ヒユーマニチー」と同一視せざるものあらんや人者惟基督之民國者惟基督之國この故に基督教國の相戰ふや互に理を命して之を附會すと雖も古來其おそるべきを認めざる者あらじ噫基督教の説教家は何の爲に其「平和」の天職を帶べる若し其れ砲煙相交り飯火空を摩するの機に際し尙逡巡として「平和」の必要を説來らずんば渠等は纔に假面の宗教家耳

といへりとぞ是日獨逸佛蘭西英吉利墺太利「ベルジユム」漣馬西班牙匈牙利以太利那威「スウイデン」「スイザランド」魯西亞「ホルトガル」「セルビア」及び米國の代表者出席し其他これらのくに〴〵に散在せる諸々の公會より委員として出席したるもの殆ど二百人其内五六十人は英人なりしといふ當會にあつまりたる基督教徒は開會の前每朝凡そ三十分間を限りて祈請會を開き又會長の請求によりて一週の間每日會を開くに當り基督教徒の爲に默禱の時間二分を與ふることゝなりたり是同盟會に提出せる議題の中には米國大統領より申出たる殖民保護策なるものあり歐洲列國全權公使公議會設立につき輿論を喚起せんといへるものあり萬國同盟大學校を起して其平和を擴張するの方法をさらんといふものあり是度同盟會に於て關接に「平和」と離れ離き問題として之を諸國政府に報告することを決議したる三ケ條は

一　勞動收益の平等分配
一　海關税の減額
一　帝王と臣下又は諸人の間に於て社會的紛紜の和解

平和同盟會は又投票を以て左の七ケ條を萬國公法の基礎と定めたり

一　人は自己一人の爲に律文を作るの權利なき事
一　一國他國に對して戰を開くの權利なき事
一　國と國と相爭んとするや先つ之を審判に問ひて其是非を正すべき事
一　國家と個人とを問はず正當防禦の天理なる事
一　勝利の權はなきものなる事
一　國民は其國家の事務と離る可らざる關係ある事
一　國民の獨立は不易なる事

同盟會の殘務は特別の場合を以て「プラッゾ、ナショナレ、デル、アーテ」に取扱ふことゝなりしといへり。

片々

○ゼームスマルチノー氏曰く些かの惡たりとも之を容赦し又は速かに信ずるも眞の慈善にあらざるなりと。

○グランド將軍曰く、仲裁談判（アルビトレーション）は時に相方の國民ともに滿足せざる事あるべしされどこは人の本心に滿足を與へ且爭ひを調和するに尤も好き手段なり。

○レデー、ソモルサット女史曰く、若し夫れ人性の利善の爲を望む人、自からの罪と悲しみとを悟り死の苦しみの終り迄吾等を慈しみ愛し給へる主が血汗の足跡を慕ひ之を踏まんと望む人、又は神の眞愛に感起し惡に染たる心を善化し自らの誤りを見ゐ能はざる憐むべき盲目を開き墜落せる兄弟意の病める弱き姉妹を強き手もて正道に導かんを務むる等の人を意味するの語なりせば、余は Faddist.（煽動者）の稱呼を受くるは大に榮あるとと是を喜ぶなり。

○サー、ウヲルター、スコット曰く、強き自制心なきものは何事にまれ貫く秀越なる事を企て又は成遂ぐるとを得ざるなり。

○ヘンレー、ワード、ビーチヤー氏曰く、正確なる主義もて道德の基礎の上に立つ人は假令全世界が彼に反對すとも恐れず而して彼は全世界よりも勝りて強きと如何計なるを知るべからす。

時事

〇警告す二疑題

何んぞ怪聞多き、而して如此き怪聞は、撰擧に熱中し、投票に一生を消す輩の念頭に掛けざる所ろなり。然れども、苟くも正義自由を愛する所ろの士人にして、如此き疑題を放擲せば、我國の自由は眠れり、我國の正義は廢れたり、我國の代議政は腐れたりと云はん、吾人は益々其細由を探知して、之を同胞に警告せざる可らず。

〇預戒令

斯る法律の必要を見るは恥かしきことなり、今の日本警察は、か丶る法律の新たに出ることなければ、能く治安を保護することを得ざりし乎。吾人は頗る奇とす。

〇筆に慎しむべし

先頃の新聞紙上に、信州山中に於ける木伐が極慘の話を掲げたり。之を讀めるもの何人か戰栗せざらん。吾人は之を細報することを好まず、たゞ之を細報する人士に向つて敢て一言せんとす。凡そ如此き事實を記載するものは、事躰國家及び人類の上に關係することを記憶せざる可らず。此の事果して事實なりとし、たゞ其まゝの一報として西洋文明國の新聞紙上に譯載せられなば何如ん、之れ深く思ふ可きこと也。且や、不在正心の人類にして、果して如此き極慘の事を爲し得べきものなりや否や、苟くも之を爲せりとせば、之れ開化國人類の品性の上に至大の問題を生ず。左れば、か丶る事類の記載を爲す文士は先づ切に筆に慎しむ所ろなかる可らず。吾人思ふに、彼は確かに狂愚の人なり、たとひ全く狂愚せずとも、幾分か、其正心を失なへるものと信ず。彼は老人に肉を食はせつ丶、死骸を其まゝに放擲しつ丶、出でゆきたりと云へり。之れ豈に尋常人が罪を犯せしのちの態ならんや、彼は確かに幾分放心せる癡人の類なるべし。吾人は國家と人類との爲めに、彼の大罪人の上に法醫の愼密なる判斷あらんことを切望するもの也。

〇國會難局の由來

甚はだ面白し、特に美妙婉曲の中に、自家當時の災厄を叙し輕々辨じ去つて大ひに責め高く笑ふ所ろ隨分に味ひあり。扨て一應の由來は固より之れなるべし、更に進み、この難局を

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

由來したる由來の由來は未だ悉さず。之れ實に考ふべき問題なり。

○磊落と愛嬌

……今の政府は自から省みて必ずしも恃む所なきに非ず唯其自尊橫風の痴情を去り大膽磊落の間に政權の柄を握りて巧みに天下の人心を籠絡し愛嬌一邊に心を用ひたらんには（是れ時事翁爲政秘中の常策）國會の開設も必ずしも苦勞の種にあらずして或は無事に其成績を得たるともある可きに謀こゝに出でずして二十三年の近づくに從ひ開設の準備とて只管ら會計の整理にのみ手を着け此貸附金は斯の如くして其年賦口は云々の始末にせんなど俗に帳面前の都合のみに心配して用意既に調ひイザ開場に至るも恐るゝに足るものなしと安心したるは果して策の得たるものあるや否やと。是れ堂々たる政治家韜略上の駁文とす。之を、近時片々たる無數新聞紙中の秀句となす。

○政治家の儉約

問ふ、近年は人の上たる人、儉約を示し給へども士の貧乏いよ〱極はまり、民なほ〱困窮する事は何ぞや。答、人心の奢やまざればなり、心の奢をやめずして事を儉にせんとする時は、東に滅して西に生ぜんとす、士君子たる人、道を學ぶ時は、仁を好んで人民を愛す、仁あれば無欲なり、無欲あれば自然に儉なり、仁愛無欲より出たる儉ならでは、上下の爲にならず、法は出る時は必らず害あり、出さゞるに劣れりと。彼の有德なる政治家、近江聖人は答ふる也。

○小內亂

要擊す、襲殺す、穽に陷いる、拔刀奮戰す、と。是れ純乎たる小內亂なり。而して此の內亂には、怪しからぬ援け手其後ろに控ゆ。現に國民派の中に巡查警部混じたりと云へり。高知縣の村長合して其知事に質問す、知事答へず。抑そも何處に質問すべき。高知縣下には今ま小內亂なきか、如何ん。

○文學界

今こそ文學界の一奮發を願ひたけれ、兎角一方に凝り過ぎ、馬車の馬の如く向ふ方の外見ざる國民が、壽命の極めて短かき、七十五日以內の考へ物たる撰擧さはぎに狂する折柄、天邊に囀づるスカイラークの如く、今こそ高潔純淸たる文學の出でたき折あれ。

寄書

明治廿五年の文學界

流芳淚人

優柔惰弱、俳優藝妓に等しき、才人佳子的の戀情小說も。鄙猥淫褻、爲永金水一流の少男少女痴話的小說も。或は怪誕無稽の妖怪的小說。或は諧謔滑稽の三馬的小說。咸く是十把一束の駄小說と零落し去て、此等小說の名目すら瞥見するの時代とは、現今の社界を謂ふに非ずして何ぞ。

若し夫れ太平無事、日久しく文恬武熈上下晏眠に耽り、文弱に流れ、誰一人天下國家の愛を以て、自ら任ずるものなき昔日に當りては、如上の小說家輩も、蓋し當時に尊重せられしならん、然れども今日の社界や、昔日の如く安眠鼓腹、太平樂を謳歌して、空々侗々、優柔淫猥怪誕滑稽の駄小說を、翫弄する如き泰平時代に非ず。

實に今日の社界たるや、世界萬國激烈の競爭中に、特立獨歩するの社界にてあるなり、其狂波濤濤の中間に屹立して、敵國外患を凌ぎ、駸々長足の進歩を企畫して、自國の威光を發揚すべきの社界にてあるなり、故を以て政治に、文學に、經濟に、宗敎に、有ると有らゆる悉皆の事物、擧つて經國てふ感念を本領として、適用施行し去るべきの社界にぞあるなり。

此國家多事なる日に當りて、我國文學家を以て自任する者、果して胸裡に一點經國てふ感念を懷抱し、其一枝一筆は、社界に顯彰傳衍して、能く世人を憤然怒らしめ、慘然悲ましめ、赧然愧ぢしめ、靄然喜ばしめ、悄乎せしめ、莞爾笑はしめ、放縱恣横、懦を起し頑を廉にし、愉絕快絕應接に暇あらざるの裡、世人をして其高識速筆に嘆服首肯せしめ得る底の、思想技倆を抱持するもの、是れ有る乎余は常に慨嘆す、從來我邦の文學に翺翔する者は、眼光豆の如く、膽識罌粟の如く、斷して男子の氣慨を有持するもの一人も無く、浮華軟弱、徒らに文筆を翫弄して、區々たる文字の繪章琢句に、畢生の腦血を絞り、目出度成功し了する所のものは、鄙俚猥雜の短篇小說之れ在るのみ、以て恬然文學家の名稱を銜ひて得々乎たるも。

識慮高遠、志氣超邁、一世を蓋ひ一國を提ぐるの壯圖大略を三寸の胸裡に收藏し、經國てふ感念片時も腦胸を脫離せず、屹然優乎文學界に卓立し、筆墨の馳する所、意志の發する所、妙案奇想、世人をして手舞ひ、足踏み、魂飛び、魄散じ、快絕愉絕の間、一國人心を其手腕意志の行進する儘に、指導する底の一大技倆を有持する如き、其人に至りては、寥然として有るなく、寥然として聞く稀なるを。今や鄙猥淫褻滑稽怪誕の駄小說、一も社界に人願を得ざるの景勢を現彰せし如きは、是れ豈に駄小說其物に、一點經國てふ誠心、挿入せざるに因由せずして何ぞ。

嗚呼今日の社界は、萬事萬般、悉皆經國てふ感念を本領として、適用すべきの時代たるは余の言を俟たずして明々白々たる此の如し、文學界に於けるが如き特に然り、而して怪絕す、今日のの文學界に、經國てう感念を懷抱して、社界に其見識を表示し以て文學家の本領を、世人に認識せしめし如きもの之れ無きを、知らず明治廿五年の文學は、抑も怎麼の現象をか惹起し來る。

頃日新刊發布せし佳人之奇遇を讀む、其文奔放雄大、高く漢に迫り、其詩歌慷慨淋漓、遠く魏晉を凌ぐ、全篇の骨子は節義忠愛を以て塡め、全篇の皮肉は人間情思の有る所を以て充つ、又全篇挿むに勃勃たる愛國の志情と自家經綸の大策とを以てす、或は射奔騰逸、或は流麗婉曲、絕えて文學家痼疾の浮華軟弱なる習氣一毫も存するなく、勇壯快活の意氣全篇に汪溢す、一讀志氣飛揚、古今を睥睨し、英雄を叱咤し、覺えず知らず几案を敲いて快哉を絕叫せしむ。道義の光地に落ち、廉恥の風世を去り、內憂外患荐りに臻るの今日、之を讀むの男子誰か報國の念を固ふせざる、之を讀むの女子誰か志操を高潔にせざる、之を讀むの社界何ぞ經國の大文字と認識せざる、眞に是れ之を今日の眞小說と謂はずんば、將た何をか小說と謂はむ、東海散士滿腔の誠血、畢生の經綸、灑注して斯一篇に在り、以て宜しく社界の照暗鏡とすべし、眞文學界の先導者と爲すべし、余は此に於て初めて我文學界に、眞文學者眞小說唯一無弐あるを斷言して憚らざるもの也。

故に余は明治廿五年の文學界は、宜しく仁愛節操の意匠、國家經綸の結構、藻潔雄贍の辭條、之に加ふるに縱横自在の筆鋒を揮つて、人間情思の微細なる箇所迄をも眞寫し、以て一國の人心を感嘆せしめ、指導せしめんとする、即ち佳人之奇遇的、或は百尺竿頭一歩を進めて、此他に一新機軸を案出したる、勇壯義烈痛快の奇拔小說出來つて、消磨し去たる文學界の元氣を振作一新し、我邦文學家たる本領を表示するあらんを切望に堪へず、又余は此の如く我文學界の元氣を振興鼓作せずんば、斯學の運命、夫れ汲々乎として、危殆の淵に接近せん、必然なるを確認明言する者也。

昨今文學界の方針、搖々撼々として確定せざるの當時、余は明治廿五年の文學界は、將さに此の如くあらんことを冀望し、社界も又此の如く爲すべきを篤信し、竊に文學界に一偉人、一愛國者、一經綸家出來らんことを祈願す、所見果して冀望に反せざるや否や、請ふ是れを後日に徵せむ。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

女報

可愛子編

●御救恤　昨年十二月二十九日鳥取縣下伯耆國汗入郡淀江町外一村火災の趣憫然に思召され、天皇、皇后兩陛下より、御救恤として金千圓を下賜せられたり。

●皇太后陛下行啓　宮中に於て一月三十日先帝孝明天皇御例祭を行はせられしに付、皇太后陛下は御拜として、當日午前十時靑山御所御出門宮城內皇靈殿へ、行啓在らせらる。

●兩宮殿下の御出發　皇女常宮、周宮の兩殿下には、去る一日午前八時新橋發の汽車にて、駿州興津へ成せられたり。

●小松宮妃殿下　には一月二十七日午前十一時四十分新橋發の汽車にて、大磯地方へ赴かれたりと。

●婦人矯風會　の會頭には矢嶋かぢ子、副會頭には海老名りん子、撰舉せられたり。

●造花科の校費生　今度神田一ッ橋通町なる共立女子職業學校に於ては、更に規則を設けて、校費生二十名を募集し、專ら校費を以て造花の技藝を敎授するよしなり。

●義俠なる婦人　一月二十八日、麴町區飯田町一丁目十一番地上遠野ヨウといふ婦人より、民黨の運動費として金二百圓を改進黨事務所へ寄附したる由、義俠の婦人といふべし。

●幼女書を善くす　四五歲の幼兒にして字を善くするもの世に珍らしからねど、近頃都下に來りて愛宕町傳曳院に宿し居る上田照子と呼べるは、齡僅に五歲の幼女なるが、筆法運筆の自然なる、老成人にも劣らぬ程なりと云ふ、照子の父は香川縣讃州の人にて上田樹德と稱し、遠く淡の紫邕の後胤とかにて、現に弘法流の書家なれば、照子の技能も其家傳に因るものならんか。

●米國紳士の義捐金　元文部省御雇米國人モルレー氏夫婦より、愛、岐震災地人民救助費に加へられ度旨を以て、這回英貨十磅四志(即ち我六十七圓七十四錢)を、田中司法大臣の許へ回送したるに付、同大臣は其筋へ右配付方を依賴せられたりと、モルレー氏は曾て同大臣の文部省に在職せし時、同省の顧問として敎育事務に功勞ありし人なり。

●外人結婚　一月廿七日、深川區東大工町六十番地大倉クラ(文久二年生)方へ、淸國福建省福淸州福淸縣の鄭元錕(元治元年生)といふ者、入婿許可の儀を、各親戚連署にて其筋へ願出たりと。

●醜臭紛々　長髮將軍一たび北國に據りて志を逐せしより、逐鹿者流爭ふて其顰に倣ひ、或は妖猫を放て遊說せしめ、或は冤罪を語ふて黨與とし、潔麗華美の首都の街、將に紛々たる醜臭に蔽はれんとす可慨哉。（東京日々新聞）。

●墮落　兩三の小新聞近時益〻淫褻に流れ或は娼樓秘戲的の猫を揷み、或は歌妓の評判記を掲げて花柳の提灯を持つに似たり、鐵鞭一下彼が頂門を打するに非ざれは德義地を掃ふて去らん、風紀子豈に眠れる乎。（東京日々新聞）。

●京都看病婦學校卒業生被雇規則　（第一條）當校卒業生看護の爲め雇はるゝときは必ず雇主の賄を受け普通患者なれば一日以上一週間迄一日に付金四拾錢一週間以上一ヶ月迄一日に付金三拾五錢一ヶ月以上一日に付金三拾錢若傳染病なれば各三割を增す「但し往復費川は別途請求す」。（第二條）連日看護するときは一晝夜間少なく共六時間休息を與へらるべし。（第三條）看病婦は專ら主任醫師の命に從ふて働くべきものなれども若し雇主に於て其看護婦が其實を怠り不行屆なりと認めらるゝときは速に當校係り員へ報ぜらるべし。（第四條）若雇主の近隣に基督教集會あるときは患者の病狀に依り暫時病室を離るゝも妨なしと認めらるゝ時に限り一週間一回該會に臨席することを許さるべし。

●大阪に婚姻多しと東京日々新聞に見ゆ。

●貞女に於ける童子の觀念　茨城縣北相馬高等小學校に於て百八十人の生徒に、忠臣、孝子、貞女、英傑、學者の題目を課し、古今內外の人物中より己の最も尊信する者一人づゝを推薦せしめし、其中貞女の一項を見るに實に左の結果ありたり（括弧中の數字は點數なり）。（茨城縣敎育會雜誌より拔萃）。

貞　女

靜女（四五）紫式部（三四）巴（二六）正成の夫人（一八）常盤（十三）弟橘姬（八）赤染右衛門（八）小式部內侍（四）袈裟（三）山內一豐の妻（五）細川忠興の室（五）鈴木宇右衛門の妻（三）平政子（二）淸少納言（一）淺岡（一）北相馬郡小堀飯田氏の妻（三）孟子の母（八）ジョセヒン（二）。

●岐阜縣知事左の謝狀を熊本メソヂスト敎會女傳道師大崎さき子に送る、
拜啓過般縣下非常の震災に罹り一時夥多の負傷患者を出し治療上殆んど困難を極め候折柄御厚意を以て早々御來縣看護に御從事被下御陰を以て昨今に至り患者陸續平癒に赴き望外の結果を見るに至り患者共は勿論其親族隣佑に至る迄治療中に蒙りたる御恩惠は永く懷に存して忘るゝと能はざる旨申合一般感泣罷在候次第小官に於ても深く感佩致候右御挨拶迄申述度如斯に候敬具、
因に云ふ、大島さき子は、肥前佐賀の人にて、長崎活水女學校を卒業せし人なり、健脚善く四時間に六里餘の道を踏破するの勇あり、又岐阜にて大島氏と共に働かれしは熊本の人、井上政子にて其岐阜縣に於ての働きと共に嘆美すべきものなりと。（護教）。

●福島縣小學校生徒女學雜誌社に寄附金す　福島縣岩瀨郡須賀川の小學校生徒は、我社通信員が見せたる女學雜誌を讀みて、心に感じ、相語らひて共に金を集め、我社に送り越したり、寄附金額及び寄附者は、
○廿錢、本間慶藏　○四錢、羽鳴駒五郎　○七錢、齋藤芳直　○四錢、寺岡熊吉　○二錢、相樂賢治　○二錢、井上米吉　○一錢五厘、江幡與惣治、○十錢、渡邊鐵藏　○三錢四厘、齋藤貞吉　○五錢、山寺治平　○二錢四厘、稻葉市藏　○二錢、山縣市四郎　○二錢、岩崎金四郎　○二錢五厘、高松和也　○二錢五厘、

吉田彌平　○十錢、相川勇穂　○四錢、水沼友市　○三錢、伊勢勝藏　○一錢、柳沼善吉　○五錢、岡部玄龍　○四錢、岡部千城　○四錢、佐藤市太郎　○五錢、河名寅次郎　○五錢、小倉朝次郎　○五錢、古寺文五郎　○五錢、西牧與八○五錢、今泉健太郎　○二錢、有馬新吉（以上二十八氏、尋常科四年生）○一錢七厘、阿部卯太郎（尋常科一年生）右二十九氏、合計金一圓三十錢、我社は深く之に感謝す。

●女工場の擴張　新潟縣新潟市富井女工場は、生徒卒業受業生共追々增加し、目下は本場にて五十餘名、沼垂支場にて廿四名、新發田支場にて五十名、村松支場にて廿七名あるよしなるが、尙ほ生徒を募集する由、又來る三月頃迄には横濱より二等教師を招く都合にて、一層事業を擴張し、本年中には百餘名の生徒を募集する見込なりと云へり。

●巖手女學校の開校式　岩手縣巖手女學校は豫期の如く、去る一月二十三日午後第一時を以て開校式を執行せり、門の正面には國旗を交叉し、式場は一面に生徒の製作品を以て裝飾せり、中に目立ちて注意を引きしは造花にて百花燦爛として場内さながら人をして四季一時に來りしかの如き感あらしめたり。場内立錐の餘地なく、來客は諸官衙諸教員諸會社新聞記者議員其他民間の重立ちたる人々等凡そ二百四十名余にして、婦人席には縣知事參事官の夫人を初めとして殆んど五十名斗りの列席あり、近來稀れなる盛會にてありき、又生徒の手に成れる造花、編物、裁縫等の製作品は、當日席場に陳列して縱覽に供し、翌日に至るまで求めに應じ賣渡したりと。

●藝妓一竄論　雲州松江市和田見新地の貸席業者一同は、過日集合を催して、夫の熱閙の巷に歌吹湧き絃妓歩するは市の躰面上甚だ看過すべからざるものあるのみならず、之を風教の上より觀察を下すも又甚だ心得難きものあればとて、藝妓をして一竄に退去せしむべしとの議を可決し、右全業者の惣代として金田才治外一名をして、二三日前松江警察署に出頭せしめ其利害を陳辨せしめしに、全署長には其義ならば當職の關係すべきものにあらざれば、縣知事に向け請願するこそ宜からんとのとなりしかば、全人等は更に縣知事に向け請願書を差出せし由。

●鳥取英和女學校　に於ては、一月二日午後七時より、ミス、ギル、ミス、ウイルキンソン兩師の歡迎會と新年親睦會とを併行せり、百餘の參集者ありて、近來の盛會なりし○當女學校は昨年來負債積りて、委員は之が爲めに腦を痛め、年末の關を越ゆるに餘程の困難を感じたりしも、或る姉妹等は大に之を歎き、東西に奔走遊說して、終に十二月三十一日の黃昏には、負債の全額即ち七十餘金を會計の手に渡したり、これが爲め去る一月五日午後三時同校に於て感謝會を開き、終に感泣堪へざるに至りしものもありし○又或る姉妹等は本月を期して、貧民女子夜學會を組織し、貧家の女兒を教育せんと、當分は其學會に本町なる覚婦の宅を充つる由。

●婦人教育會　和歌山縣和歌山市に佛教徒が設立せる同會は客歳創立より今猶繼續し、每月一回開會し、本願寺教師出席講演し居ると雖ども、會する婦人は大抵其會の主旨をも辨へ能はざるもののみにして、中には教育もありて稍道理を解する輩もある由なれども、是迚も熱心婦女社會の弊風を矯正し、風儀上の裨益するではなく、唯何んとなく囂々として蝟集し、每月一度衣服美を競ひ、以て吾れ人より名譽を博する位を以て樂み來る輩のみなり、故に多く集會ある割合には、其効果を呈出せざるは爾かある故ならん乎。（基督教新聞）。

●女子の化粧部屋　は其性質と慣習を示すものなりと、クリスチアン、ガーデアンに出でしと、護教に見ゆ。

●和歌山通信　◎和歌山高等女學校在籍生二十七名、本年卒業生十名を出す筈、全高等小學女子部在籍生三百三名、本年卒業生三十七名を出す筈。

◎和歌山女子裁縫學校は、目下生徒數四十名、修身、作法、家政、諸科の外、主として裁縫專修なり、教師は野口須磨女史なり。

◎始成、內町兩尋常小學校に於て、昨年來二名ッヽ女教師を聘用の後、其生徒に教授するの懇篤なる、其管理上の緻密なる、共に好評を得たり、當縣下に於て裁縫教師の外、尋常小學に就職するもの、田邊町の外當市に於てあるのみ、悉く當市高等小學校女子部の卒業生なり。

◎尋常師範學校女子部は、本年十名の生徒を募集の由

◎和歌山婦人文學會は、有志の女子集會して經書及歌學等の研究をなす、會員二十名許。

◎和歌山基督教會婦人傳道會員發起して、昨年十二月眞光夜學校を設立し、貧民の子弟を懇切に教援せり、其父母兄姊にして感泣するものもありと云、然れども世の冷眼者評して曰く、口に蜜あり腹中刄を藏すと、あゝ主任者の苦心察するに餘りあり、願くは主にありて堪え忍ばれんとを、目下生徒二十余名、漸次申込みあり。

◎和歌山婦人會及本願寺婦人教會には著しき運動なし。

●英國女皇陛下のシカゴ博覽會に關する勅令　英國女皇陛下は、シカゴ博覽會に就て技術工商協會へ左の勅言を下されたり。

天帝の恩惠に依り大貌列顚愛蘭土聯合の女皇幷信心の保護主たる朕維多利亞茲に技術工商會奬勵會の總裁、副總裁、會計員及其他の會員へ宣示す

北米合衆國大統領は其國會議定の旨に從ひ來る千八百九十三年を以て工業農業及美術製作品の世界博覽會を該國イリノイス灑シカゴ府に開設すべき旨を我外務卿を經て朕に通告し併せて我大貌列顚及其領屬地の該會に參同して之れが代表者を任命し且つ其富源工業幷に開明の進度を能く充分に顯すべき出品を爲んとを請求せり

惟ふに該博覽會たるや我大貌列顚愛蘭土の聯合國及び歐羅巴、亞細亞、亞弗里加、亞米利加、濠州斯多剌里に於ける我が領屬各地の工農業及美術を充分相當に之れに出陳するの効益必ず尠らざるを期すべく我臣民の宜く參同すべきものとす而して玆會の斯く翹望すべきを思慮し其成功を完全ならしめんことを切望

するに依り玆に卿等の忠誠廉直にして且つ敏達なるを篤く信じ卿等技術工商協會の總裁、副總裁、會計員及び其他の會員を以て命じて我事務官たらしめ我大統列顚愛蘭聯合國及ひ其領屬各地出產物品を採集し幷に搬出するの最良方法を詳細に調査報告し勸告補助を與へ一般に該博覽會の成蹟をして完きを得せしむべきことを任せしむ

此詔勅の旨を遵奉し取扱ひたる一切の事務は漏れなく書面に記し協會印を捺し上奏すべし

事務官の任は該博覽會閉鎖を告げ諸般の會務完結の期に至る迄は繼續するものとす又時々休會は之れあるべきも各事務官若くは其三名以上は何れの場所にか當に其職務に從事し諸般事務の取扱をなすべし

即位第五十五年即ち千八百九十一年八月二十六日セントゼームス宮城に於て

奉勅　ヘンリーマッシュー

●澳國皇后の御母薨ぜらる　澳地利皇后の御母バベリヤ公爵夫人ルイザ、ウヰルヘルミナの御方には、一月二十七日薨去あらせたりと其翌日我外務省へ電報達したり。

●ランド夫人の著作　多くの禁酒上の小說を著はして有名なるメリーウエイチルチリスランド夫人は、近頃逝去せられたり、世の禁酒事業を助けんが爲め譯を著されたる書物の多かる中に、此夫人の著作程世に多く廣がり且力ありしものはなからめ、其主なる著作二十七は公立禁酒會より發兌せられ、六千弗程の收入ありたるよし。

●英佛獨に於る娼妓の數

英、佛、獨三國の各要市に於ける娼妓の數は最近の統計に據るに左の如くなりと、

	娼妓數	人口一萬に付
倫敦	三萬一千八百人	八十三人
巴里	二萬六千九百九十人	百二十二人
伯林	二萬七千三百人	二百四十八人
里昂	五千五百二十人	百四十五人
馬耳塞	四千八十人	百十二人
ボルドウ	二千六百十人	百二十五人

又巴里警察官の報告する所に據れば、同國の娼妓中八割九分は佛人にして、外國人は一割一分に過ぎず、而して又醫學字典の報ずる所を見るに、娼妓の生涯中に於て子を設くる者は百人に付き六十人にて、四百八十人中百人は既婚婦人なりしと云へり。(國會)。

●慈善事業の爲に大金を喜捨す　動物保護會員フランセス、ボーワー、コーブ孃は晩近一慈愛家婦人より慈善事業に消費せられんとて十五万弗を受られぬ。

●園てる子夫人　米國女學新誌は記して曰く、日本東京の人園てる子夫人は過る二ケ月間ボストン府及び近傍諸所の教會を遊說せられぬ、主なる目的は日本上流の婦女子の爲に基督教主義の學校を建設せんとての基本金募集にして中にもボストン府エーゼー、ゴルドン夫人等は尤も熱心なる助力者なり。夫人は日本に於ける女代言人の最初のものにして尤とも同國婦人の位置の賤しきに懸念し如何でか之を高めんと非常なる熱心は遂に今より四年前夫人をして米國に渡來せしめぬ。されど不幸にもカルフォニア州に着するや未だ日淺きに夫人が資本金を托せし銀行の閉鎖せしが爲め遂に幾多の不慮の困難に遭遇しければ夫人が熱心は此等をよく耐へ瀰き加ふるに其中にてよく英學を修め遂に紐育府ブルークリンなるチスボン夫人の傳道學校に日本語教師として聘せらるに至れり、夫人が經歷は大に見るべきものにして今は「日本に於ける余が成長」と題し小さき書に版し自叙せられしものありと。

●大學の女教授　昨年十一月廿日ズーリック大學は其委員會總會に於て婦人を大學教授として用ゆるの可否と云ふ案を提出し大凡二時間計の討論ありたり。總會委員の多數は同案の贊成者にして即第一案は現今大學教授中に婦人を容るゝ事を必要すと云にあり、之に反し大學組織の部内に婦人を容るゝの必要なる理由なしと主張せるもありしが結局十名に對する十九名の多數にて可決し遂に過る二十年間中當大學并他の諸大學が婦人の入學を許せしも深奥なる專門學を之に研究するもの少なく男子すら多くは後來大學教授たるの目的あるもの等が多く學ぶ位の事なるは蓋し其需要なきが爲なり故に後學びし所を働かしむるの位置即教授たり得るに非ざれば入學のみを許すとも好結果なきなりとの論に至りし時は大學總長に至る迄大に贊成を表示せりされど議長たるの故を以て投票は許されざりき。

問答

可愛子

●問。貴社御發兌書籍の中、小學校の女生徒に對する修身上の尤も簡易にして、子供に解し易く、又口授に適當なる書を御知らせ被下度候。(石狩國宮知郡札幌花田諫吉)。　●答。子供の話といふ本があります。　●問。當地に婦人會を起し集る女子の見て學ぶべき書籍を求め度と存候、何か書名御示し被下度候。(花田諫吉)

●答。弊社から出ます通信女學講義錄、木村鐙子小傳、西洋女禮、女子生理、兒育て草、家政要旨、婚姻論、及び弊社發捌の日本女子讀本初步日本女子讀本、女小學膝草、女子文例などあります。

●問。赤十字社出版の看護法は何れの出店に有之候や。(在東京澤子)。　●答赤十字社で發捌かれますと思ひます。

●問。日本人の著述に係る簡易なる心理學及び論理學は、何人の何書が宜しく候や何上候。(浪華女學雜誌愛讀者)。　●答。心理學は元良勇二郎氏の著、論理學は清野勉氏の著がよろしいと思ひます。

●問○愛に苦あるは何故なるや御明教を乞ふ。(靜岡、碧流生)。　●答。時間、地位、境遇等の關係ありて、思ふ如く盡すとが出來ないから、起るのでせうと思ひます。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

震地傳道隊報告

婦人矯風會錄

第十四報

名古屋に於て兩夜大演說會を開く
壯士初の夜大に騷ぐ、次の夜壯士合して演說會を保護す、
僧侶談判に來り釋然解悟し笑つて歸去す。

一月廿四日小野君岐阜縣下を凱戰の下に引き揚げ名古屋に着す乃ち余が病氣の爲めに怠慢せし間の運動をきくまゝに東京より阿妹が無聊を醫する爲めとて贈附し來りし文學書をかいやり病床筆を染めたり是即ち前の第十三報なりき

隊員復一となる

廿六日松田君は濃州より一小女を伴いて來着す是に於て隊員ふたゝび旗下に集る

津田仙翁の俠賜

廿七日午前隊員は津田翁を牧師美山君の宅に訪ひ金城將來の傳道を談し且つ翁が今回當城を去る五里瀬戸町に於て禁酒運動の時利を得られし有樣をきゝぬかくて翁徐々隊員の容顏を眺め居られしが忽ち微笑しつゝ語て曰く君等實に勝利の相ありて現はる議し連戰連勝の然らしむる所なるべし當地にても必ず勝利を得べし請ふ主の爲め努力せよ余東京にあれは多少を辨すべきも今や旅行中なれは意に任せず唯だ諸君が劇場を借る、さきの幾分を補ひ得ば則ち余が本懐なりとて壹金を出されたりかくて我隊には一方ならざる同情を表せられたり

公會場の借り入れ頓る困難

隊員は津田翁を辭し直に劇場寄席等有りとあらゆる重なるものを探求したれども陰曆の元旦數日に迫り居りければ狂言の演習場裏の脩繕等にて得べからず而て僅かに一席を借たりければ新聞に廣告を依頼なし來り場裏の整理をなさましとて行きしに折から手踊りの演習中にてさきに席主が借主と相談せざりしと見え遂にさきの借り主は不承知を唱へ是亦破談となり了はんぬ其れより花街の側なる大須の寶生座といふ劇場に至る是れも三十日の元日には狂言を演ずる爲めに廿八日のみなればと言ひしが遂に熟談整ひ廿八廿九兩日借り入れの約をなす是より直に準備を整理し是日はくれぬ

一同壯士の喧噪

廿八日午後六時我隊は陣頭に進軍す松田君司會者となり聖書を朗讀し祈禱を捧げ奉り且つ短簡に開會の旨趣を演ず既に妄評四方に起り始めたり余は先登者の榮譽を荷ひて壇上に現はれたり曰く「宗教とは何ぞや」冷評妄言四方に起り壯士等のもの數名壇下に來り仰ひて一言一句を妄評す然れども余は餘りの可笑しさに堪え得ずして三四回失笑しぬ此の如くすること五十五分言はんと欲せし所を言ひ退きたり

基督教とは何ぞや

とは中軍小野君の旗章也妄言忽起り場裏喧噪然ども氏も亦た大聲疾呼其說を添して退く

後軍として現はれたるは

松田君也其演題は基督教主義の人物といふ場裏一層の喧噪となり十數名壇上に集り來る曰く討論曰く質問然れども松田君は微笑して曰く君等が如くがや〱いふたりとて譯が分るものにあらず若し眞に討論せんとならば明日わが宿に來るべしと是に於て壯士は聽衆に向ひ明日は松田君をしてバイブルを抛たしむるかはたまた余が之を信奉するか余は明晩松田君をして此壇上に得立たざらしむべしと場裏涌くが如く愉快なりき此壯士といふは常に警官をして厄介物と思はしむる一種の團體をつくり居るもの也かくて松田君は語を次ぎ了んぬ是夜會するもの殆ど五百名にすぐ終に臨み木戶を閉ぢたれば入ることを得ずして場外鯨波をあぐるもの亦多かりし

壯士の內幕

翌廿九日午前松田君は夫の壯士の宿がり尋ねゆきぬ將さに他出せんとせる所にて是は〱といふ譯にて一時間半ばかり閑談せしに別に是といふ程のこともあるにあらず二三の誤解ありしも忽ち松田君の爲めに說破せられ今夜は場裏を鎭撫すべし全躰我團躰が破壞せんとするときは沼間でも〇〇でも辨論することを得ざりし也然るに昨夜君等は沼々毫も構はずやるものダカラ實は我か團躰も一歩を讓りたる次第也是迄基督教の演說會抔ありしときの如くなるべしと預想せしは誤りなりし也云々實は膽試めしにヤッテヤルノサ

石井君美山君

是日午前來訪日本將來の傳道策につき痛論快談ありぬ

第二回また混雜す

是夜も壯士はたとひ亂暴せざるとも僧侶等來り騷ぐべしとは預想しぬ七時前十五分開會余は司會の地位にたち先登者小野君を紹介す其演題は我黨の告白といふ約の如く壯士等は靜にして樂屋などにも來りたりき

僧侶果して演壇に來り

質問とか討論とか彼是打ち騷ぎたりしが壯士等は僧侶等に向てまた一場の騷ぎとなりぬ

國民の理想

と題して松田君現はれたり場裏皆な立ち上りて聽衆にはあらで見物人なりき是夜夫の壯士後れ來る余等は彼等の今宵は騷がざることを警官に言ひおきたれども從來の癖あれは遂に壯士と警官との葛藤となり一時は大立ち回りとなり遂に翌三十日の扶桑新聞欄外に左の如く記せしむるに至れり

基督教演說の大騷ぎ巡查の拔劍

昨夜大須寶生座に開きたる基督教の演說會は豫て前夜討論演說をなす筈に約し置きたることなれば聽衆は續々詰めかけ定時には殆ど滿場立錐の餘地なく扨て第二席の松田某演了するや聽衆中の一入齋藤鑛之紿氏は演壇に現はれ出で將さに討論にかゝらんとするや臨監警部は騷擾を來たさんことを憂ひしものか討論をさし止めしにぞ茲に一大騷擾を惹起し聽衆は總起立となり非常に紛擾を極めしにぞ出張の巡查某は拔劍して之を取鎭めんとせしかば齋藤氏は之を見とめて非常に激し巡查と同氏と議論を始め遂に同氏は巡查と同行して警察署に行きしのちのことは次號に詳しく揭げん

右事實の正誤

壯士は前述の如く今宵は決して亂暴の意なきのみか却て僧侶等を彼是鎭撫のために議論せし位なりし然れども壯士齋藤の入場するや百五六十名のものは門前に群集して入らんとし木戶口は既に〆切の後なれは之を入れず是に於て夫の壯士は辯士なる松田君の側に來り余彼等をして騷ぐことなからしむべければ許して入場せしむべし松田君は之を諾せり然れども警部は必定齋藤壯士が仲間を引卒して騷擾せんとの意なるべしと想はれけん頻りに壯士に命じて辯壇を降らしむ然るに壯士は辯士との談合なりとて肯ぜず遂に扶桑が記するが如くなりければ坐主は明日の輿行に差支の起るべきやうになるべければ遂に解散となし呉れよとて迫りたり如此事情なれは浮氣の聽衆否見物人の靜まるべき摸樣なく場外にては二十人巡查に斬られたりなどゝ風說して是亦一種の騷ぎとなりぬ故に余は遂に最後の壇上を踏

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ますして解散を宣言せり
翌卅日午前僧侶來り論ず
らざれば「アー僕は負けた〳〵」と昨夜會場にて騷ぎし僧侶は數人の傍聽者を誘ひて來りぬ然し本氣にあ後に夫の僧曰く君と談論するは普通の傳道者と異日君と再會して談論すべしとて暫し餘談に移りぬと某地の某とのみとはよく談出來たり實は三四年此地に於て基督敎の公會なしたるに今時節演説會を開くとは異なりて余が是迄出遭ひしうち君ごんな大膽者よ
と想ひ驚きたりなど〻お世辭を食はせたり余はハヽア、ソゥカ僕等は敢て大膽とも何とも自ら考へず唯だ此地は道德が腐敗し我敎の勢力未だ發達せざりしことなれは幸にあき居たりし場所を借りたる迄の事よ
各古屋市公會の結果
として見るべきもの未だ明ならざるは勿論のことなり然れども既に角喧噪騷擾の間に少しも搆ひなく頓着なく押し切りたることが存外の好評となりたりと傳聞す又壯士の中幕が分りたり公會後壯士二三のもの數次宿に尋ね來り大に說破せられて歸り去るの摸樣なり壯士とは友人の如くなりと隊員は笑ひ居る也然り我隊もクリスチアン壯士也と某隊員は云いぬ
警部の感服
卅日警署に至り一言の謝辭を陳す當直警部某氏と閑談せしがクリスチアンにつきて大に感嘆の辭を吐かれたり
アいまた耶蘇の演説をやるか
とは二老人が町で立ちながら嘆息したるを聽きたりと一信友の笑話
中々大膽な奴じやな
とは往々街上耳にせりと二青年の談なり
美以教會堂の公會
博士フルベッキ氏東京より來らる乃ち靑年會の盡力によりて卅一日午後二時より我隊と聯合して開會す恰も好し陰日の二日なれは街上閑歩の客多く定時に至り會するもの遂に四百名にすぎたり余は寶生座にて最後に殘したりし「社會の良心」てふ題にて所感を陳す同感の人多かりしは幸なりき次でフルベッキ氏「永生」にて演說せられたり
是夜亦
松田君は「殉教者の必要」と題して滔々論じ去りたりフ氏は「基督敎と學術との異同」といふ題にて當地に最も適切なる談論ありき會するもの滿堂拍手涌くが如し小野君は新美以教會の講義所にて演說したり
我隊の働きは
一月最後の安息日を以て一先づ戰場より退くことゝなりぬ此間時日固より少しと雖も主が我が隊に降し玉ひし賜は鮮少にあらずと云ふべき哉
其地を云へは
十一所にして公會の數は二十二回實に僅少のものなり然ども其成效は意外にして我儕の求むる所思ふ所よりは甚だしく過れる事を主はなし玉ひたり故に我隊は深く皇天に謝すると共に尙更に此精神を以て日本帝國の爲めに進みて働かんことを期望するもの也
名古屋其れ自身は保守也
とは一目に斷定し得べし地方商業上の關係にや正朔を奉じて一月に元日を守るもの少なし一月三十日に至りて祝餅を見るの奇觀を呈す吾人は尙ほ此名古屋にて鑑定したる事實怪談少からず然れども是は他日の閑日月を待て論談せん
我隊は將さに隊旗を卷きて
陣頭を退くの時に至れり敵をして金城々下の盟ひをなさしむるの日近づき來んことを天に祈りつゝ日を經ずり帝都に暫しの凱旋をなさんとす
小野君はフ氏と共に
今朝瀨戶町にゆけり午後二回の公會を開き明朝早く歸るべし
此第十四報は
震地傳道隊が開戰地に在りて特報する最後の報讀なり圓滿なる第十五報の望月は解隊式を帝都に開きたる此小さき卷物の上飾りとなりて光るなるべし
二月一日金城に於て
書記　湯谷磋一郎識

會計

第九回

入の部

金百八十六圓十九錢九厘　前回迄合計
金十圓(二月一日)　横濱無名氏
金四圓十六錢五厘　右無名氏方有志者數人
金二十錢
金一圓　本間錠吉及高橋善治兩君
右内譯
金五錢　藤井歌子
金五錢　同　妻子
金五錢(小學四年)　同　榮子
金十錢(小學三年生)　同　昇五郎
金十錢　同　太藏
金十五錢　同　長次郎
金十錢　同　禎祠
金十錢　同　喜一郎
金三十錢　同　米八郎
合計　二百一圓五十六錢四厘

出の部

○百七十五圓四十四錢五厘　前回迄出費合計
○金五十三錢
右内譯
二錢(二十八日)　横濱佐々木笑止郎氏へ送狀
二錢(同)　名古屋隊員へ送狀
二錢(三十一日)　宮部文臣氏へ隊用送狀
四十五錢(二月一日)　名古屋へ送狀
同前へ電報
○金八圓四十三錢二厘(一月十七日より廿四日迄)傳道地入用
右内譯
一金十五錢(十七日)　電信
一金二錢　郵便
一金二十五錢　宿泊料
一金二十四錢　岐阜、笠松間車代
一金十五錢　荷物運搬
一金一圓三十五錢(十九日)　十六、十七、十八、十九日宿泊料
一金八十六錢　聖書及衣服運賃
一金二錢(二十日)　鞋二足
一金五錢　理髪
一金一圓二十二錢(廿一日)　二十日宿泊料
一金三十錢　岐阜、笠松間車代
一金六錢　日本評論
一金三十錢　郵便切手
一金三錢六厘(廿二日)　渡船賃
一金一圓四十三錢(廿三日)　二十一、二十二、兩日宿泊料
一金六十錢　笠松、竹鼻間車二輛
一金二十錢(廿四日)　竹鼻、笠松間車一輛
一金七十七錢七厘　笠松演說會費用
一金十錢　笠松、木曾川間車二輛
一金十四錢　木曾川、名古屋間滊車
一金十三錢　同聖書運賃
一金十四錢　名古屋停車場ヨリ東島町中島屋まで車賃
一金九厘　船賃
合計　百八十四圓四十錢七厘
現殘金十七圓十五錢七厘
去廿四日後の會計報告は會計より未だ送附せず

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述　つれ〴〵草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述　文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述　百八一首講義	一冊(改正)	上三十五錢 並二十八錢
船越鼎太郎君著　産婦小兒攝生法	一冊	金十六錢
關輪正路君纂　ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子君著　善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著　婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演説　廢娼演説	一冊	同五錢

新年遣ひ物佳書

は面白き勸懲繪草紙にして第一子供にも分り易く大人にも敎へとなるべき意味ある書物なれば土産遺物としては無類のものに候

定價一冊五錢
郵送料二錢
女學雜誌社

女學生

二拾號去ル一月廿一日發兌セリ

漫錄

額上の汗……………………星野愼

病中雜感(苦腸百回、愛の攝理、主と我等、先づ己に反求す、愛と慾、至不至、神の前と人の前、小心と大膽、愛すべき愛よ、烈火と熱涙、最も寂しく最も賑やかなり、德)……山月子

百感雜筆(義は讓るをを爲す、感情は水蒸氣に似たり、浮世書上の難字)……暗光子

雜錄

新年祝……(女子學院)小出千香子

細君(アービング作下牛譯)……(明治女學校)波多野祐子

故山の日……(女子學院)瀧口みか子

新年附錄小說

太刀創……暗光子

一冊六錢

女學雜誌社發兌

女學生仝盟各女學校は左の如し

○明治女學校○女子學院○女子神學校○共立女學校○フエリス和英女學校○頌榮女學校○跡見女學校○立敎女學校○成立學舍女子部○女子獨立學校○海岸女學校○長榮女塾○東洋英和女學校○靑山英和女學校○金城女學校○高田女學校○海香崎女學校。

定價			
一冊。	前金	五錢五厘	郵稅。五厘
六冊。	前金	三拾三錢	但郵稅共
十二冊。	前金	六拾六錢	但郵稅共

本誌は每月一回廿一日に發兌す○代價は前金拂込を要す○爲替は麹町郵便局宛にて振込被下度○郵券代用は五厘切手にて一割增の事○見本郵券六錢にて送るべし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

皇后陛下 明宮殿下 御覧濟の書

巖本善治妻譯

小公子

（リツトル。ロード。フホントルロイ）

小供のよみ本

譯者の序に曰く、母と共に野外に逍遥する幼兒が、幹のくねり、尋常ならぬ一本の立木に指ざして、かあさん、あの木は小さい時誰かに踏れたのですネィ、と申たとか。考えて見ますと、美事に發育すべきものを遮ぎり、素直に生ひ立つ筈の者をくねらせる程、無情なとは實に稀で御坐り升。邪道に陥らふとする父の足とゞめ、卑屈に流れ行く母の心に高潔の徳を思ひ起させるは、神聖なる天職を擔ふ可愛の幼兒に限ります。私は深く幼子を愛し其恩を思ふ者故、此珍重すべきまろうどを尚一層優待したいと切に願ふ者です」と。斯る主意にて譯述る。原著は近頃英米に響き渡り、子供の讀物として愛々しきと潔き事の類ひ無きは更にも言ず、白髮の老者も心頑なの人も、之を讀る間は天使に接する如しとて、推賞大方ならず、改版十數回、且尚ほ劇に演して非常の喝采を博しぬ。譯者は斯る原文の味を損せじとて辛苦せられ、紙數二百八十頁插畫十四箇入の大本として今日世に進め玉へり。一冊正價三十八錢。郵税八錢也

發兌元 東京市麹町區下六番町六番地 女學雜誌社

品名	二月四日
白米（一円ニ付）	
一等米	一〇〇（斗升合）
二等米	一〇二
三等米	一〇五
四等米	一一〇
五等米	一一五
正米（一円ニ付）	
尾張米	一二八（斗升合）
美濃米	一三九
越中米	一四五
南部米	一四九
忍領米	一三〇
雜穀（一円ニ付）	
本大麥	二八〇（斗升合）
上小麥	一七七
竹林麥	一八五
梅澤大豆	二一三
青柳大豆	一九六
吟小豆	一六五
白胡麻	一二五
黒胡麻	一五五
鹽（一円ニ付）	
赤穂	三、四五（俵）
大鹽	三、五五
本齋	五、五五
新齋	六、一五
醤油（一円ニ付）	七四（樽分厘） 七九 八七 一、一〇 一、二七 一、五七 一、七二 一、九〇 二、二〇 二、五〇
最上	
極上	
上物	
中物	
並物	
味噌（一円ニ付）	
地製上白	六、八〇〇（貫）
同上赤	六、八〇〇
同紅赤	四、三〇〇

品名	二月四日
絹糸（一円ニ付）	
本練花紺色	二七〇（匁）
同色物	二五〇
羽二重糸色物	二四〇
同上黒	二八〇
色物別上	二四〇
延糸太筋	三三〇
芥子糸色物	三〇〇
同薄色	二四〇
極天色物	二三五
色物太練	二五五
紡績糸	四五〇
眞綿（一個ニ付）	
上々入金	一二〇、〇〇（円）
上入金	一一五、〇〇
並入金	一〇五、〇〇
松入金	九七、〇〇
竹入金	九二、〇〇
梅入金	八五、〇〇
繰綿（一円ニ付）	
新坂上銘大入	七八〇（目）
新京丹大入	八一〇
新坂丹大入	八二五
新三上銘大入	八五〇
同文庫入	九三〇
新尾上銘大入	八五〇
同文庫入	九三〇
地綿文庫入	九四〇
八王子織物（一反ニ付）	
本絲織	五、〇〇
一樂織	七、五〇
節糸織	四、五〇
飛地黄八丈	四、五〇
黒地黄八丈	四、七五
黒七々子	七、〇〇
白七々子	七、〇〇

品名	二月四日
製茶（一貫目ニ付）	
山城江州稀大頭	二、五五（円）
同稀頭	二、一〇
同大頭	一、七五
同中頭	一、四七
同中茶	一、八一
狭山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、七五
同大頭	一、四七
同中頭	一、三三
同中茶	一、〇七
鰹節（十貫目ニ付）	
土佐上	二四、〇〇（円）
同小	二二、〇〇
薩摩大	二〇、〇〇
同中	一八、〇〇
城の腰小秋	一九、五〇
同中	一八、〇〇
房總夏中	二〇、〇〇
同秋小	一六、〇〇
銚子上	一五、五〇
同中	一三、五〇
水戸磐城小	一四、五〇
同大	一二、五〇
水油（一樽ニ付）	
地水	六、六〇（円）
胡麻	九、五〇
荏油	九、三〇
桐油	五、四〇
綿油	…
坂水	七、六五
石油（一箱ニ付）	
チヤスター	…（円）
デポース	一、六二
ホーキ	一、六四
ロシヤ	一、六二

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

二月後の護教

記載の要項左の如し

摘要　本社に到着する西字新聞は。監督メソヂスト派機關新聞「クリスチアン、アドボケート」、南メソヂスト派仝「ゼ、クリチアン、アドボケート」、加拿太「メソヂスト」派仝「クリチアン、ガーヂアン」及ひメソヂスト評論、世界福音新聞「ゼ、インデペンデント」等にして摘要は其中より有益なる記事を抜萃し。又基督教新聞、福音新報、女學雜誌、公會月報、國民之友等の交換雜誌中よりも注意すべき要點を摘錄す。故に此等の諸新聞を通讀するに隙なき人には此頃大に利益あり又此等新聞紙に如何なる記事ありやと云ことを注意せしむるの助けともなるべし

社説　論文六ケ敷過きるとの評もあれば成るべく平易に書くべし

教報　は讀者より色々の注文あれども、本社別に信ずる處あれば出來るだけ簡短にして廣く出來事を網羅することを務むべし、本社は三府一廳二十一縣及び合衆國、淸國、獨乙等よりも通信せらる人を有すれば報知を得るに至て手廣なり

寄書　本社は日本最新の敎育を受けたる多くの靑年の寄書家を有す。本社は餘り名の知れ渡りたる寄書家を有せざることを白狀す。さりながら氣魄あり精神あり、未來に雄視すべき望を有する寄書家は本社の特有する處なりと自慢し居る位なり。

講壇　本社の此欄を設けたる旨趣は諸大家の說敎を要略して每號いくつも載せる積りなりしが行屆かず因て近頃は有名なる內外諸大家の說敎を每號此欄內に載せて僻遠なる地方の看官に靈の饉を呈すると定めたり。文躰は原文一致若くは讀み易き平假名文を用ふ。

論說　此迄此欄に載せし諸大家は今後も屢々高說を割愛せらるべし。本社の困るのは文の餘り長きとなり。本社は注意して乳の多く水の少い樣な論文を集むるとゝすべし。

家庭及學校　言文一致躰にて小見にも婦人にも分り易き話を載す。餘り上手には書けねど譯の分らない樣には書かぬ積りなり。

此外文藻小言などは折々載することとすべし。原來本紙の躰載は其時々の需要に應じて徐々に改定することにいたし置たれば今更特別に改頁を廣告する譯にはあらず此後とても此儘にていつまでも變へずに置と云ふ譯にもあらず。唯發刊以來纔かに六閱月、號を重ぬる只三十號の若者なれば世間に御存じなき方多からんと思ひ此處に廣く大方に告げ奉る。御注文の方は本社に御申越を乞ふ。

定價表

一部	二錢五厘	外に郵稅
十二部	三十一錢	
二十六部	五十八錢	
五十二部	一圓十錢	

一部　二葉八ページ

明治廿五年二月一日

東京市京橋區竹川町九番地　護教社

第一高等中學校敎授久米幹文先生序○飯田永夫校註

校訂標註 **竹取物語**

美本一冊　正價十錢　郵稅二錢

本書の文學上絕美の書たることは世の知る所なり今茲に周到懇切なる校訂標註を加へ至廉を以て江湖の需求に應ぜんとす請ふ御愛讀あらんことを

發賣元　東京神田區今川小路二丁目十七番地　上原書店

大賣捌○東京堂○大倉○上田屋○東海堂○小西

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日本第一等

おしろいいらず化粧用

小瓶 金十錢
大瓶 金廿錢

白妙は薄化粧の料としてつやある美しき白色をあらはし白粉をぬり附たるがごとき氣味少しもなし

白妙は化粧下に用ゐて白粉の附き方よくむらにならず又あせをかきてもはげるをなし

白妙を用ゆればいかにあれ性の人にてもあれるをなくにきび○あせも○はたけ○すりむき○ひゞあかぎれ○しもやけなど直ちに治すべし

白妙は人躰のはだをやわらかにしてつやをよくし眞にゑんびなるはだ合となし色黑き人もしぜんにま白色の美人となるべし

白妙は少しの水にてとかし又は其まゝにて用ゆるもよし

白妙はもちまへの香氣によりてもろ〳〵の不浄を清むべし

白妙は醫藥衛生の諸學理とあまたのためしとにもとづき○ワセリン○リスリン○サノリン　白色顏料其他いろ〳〵の藥を以て製造したる無比の化粧料なれば從來世間にありふれたる化粧下や水白粉ねり白粉とは大にきゝめあり

白妙は人躰に無害有効なるは勿論化粧下に用ひて日本白粉のおそる可きどくをふせぎ前記の實効を有する事は近來かいこくの醫士學士等のたつけんせつと又わがたび〳〵のためしとによりてしかとみとむる所なり乞ふおためしの上御ひようばんをたまへ

此白妙は藥劑師大鐘立岱氏の發明創製するものにして本舗に元販賣を托せらる依て陸續御求めを乞ふ

元祖色白くなる三能しやぼん　壹個　拾錢
髮のこやし毛のはへる香油一名美人かつら　一瓶　拾錢
あれ性の御方々は御必用玉子ぬか　壹個　壹錢五厘
御おしろい下ひゞぐすり玉のはだ　壹瓶　六錢

發賣本舗
銀坐一丁目つやふきん
佐々木玄兵衛

新年初刊の女學雜誌には、附錄あり、親に後れし後の述懐と題する「すゞ子女史」の文あり、彼の一夜と題する「山月子」の文あり、人生に寄すてふ無名氏の譯文あり、請ふ一讀せよ。

上製美本　三十五錢　郵税六錢

第三版

百人一首講義

新年の讀書に宜し
歌留多遊びに宜し
進物に宜し
詠歌に宜し

女學雜誌社

轉居 下六番町六番地女學雜誌社内 **星野愼之輔**
○面接日。月曜日、社内にて。○土曜日、本町四丁目自宅にて

産婆 本郷森川町一番地百七十號 慈善看護婦會内同居 **玉生くに**

女醫 下六番町六番地明治女學校内にて外來患者を診察す（校醫） **荻野ぎん**

迎接日 木曜日午後三時後 **巖本善治**

雜誌定價

一册	六錢	郵税。五厘	（但府内無郵税）
十一册	五拾八錢	郵税。五錢	（同前）
半年分	壹圓四拾三錢	府外は	壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

東京市麹町區下六番町六番地
發行所 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

おしろいいらず化粧用

小瓶　金十錢
大瓶　金廿錢

日本第一等

白妙は瀕化粧の料さしてつやある美しき白色をあらわし白粉をぬり附たるがごさき氣味少しもなし
白妙は化粧下に用ゐて白粉の附き方よくむらにならず又あせをかきてもはげるをなし
白妙を用ゆればいかにあれ性の人にてもあれるをなくにきび○あせも○はたけ○すりむき○ひゞあかぎれ○しもやけなど直ちに治すべし
白妙は人躰のはだをやわらかにしてつやをよくし眞にゑんびなるはだ合さなし色黑き人もしぜんにま白色の美人さなるべし
白妙は少しの水にてさかし又は其まゝにて用ゆるもよし
白妙はもちまへの香氣によりてもろ〳〵の不淨を淸むべし
白妙は醫藥衛生の諸學理さあまたのためしさにもさづき○ワセリン○リスリン○チノリン白色顏料其他いろ〳〵の藥を以て製造したる無比の化粧料なれば從來世間にありふれたる化粧下や水白粉ねり白粉さは大にきいめあり
白妙は人躰に無害有効なるは勿論化粧下に用ひて日本白粉のおそろ可きごくをふせぎ前記の實効を有する事は近來かいこくの醫士學士等のにつけんせつさ又わがたび〳〵のためしさによりてしかさみさむる所なり乞ふおためしの上御ひようばんをたまへ

此白妙は藥劑師大鐘立岱氏の發明創製するものにして本舖に元販賣を托せらる依て陸續御求めを乞ふ

元祖色白くなる三能しやぼん　壹個　拾錢
髪のこやし毛のはへる香油一名美人かつら　一瓶　拾錢
あれ性の御方々は御必用玉子ぬか　壹個　壹錢五厘
御おしろい下ひゞぐすり玉のはだ　壹瓶　六錢

發賣本舖　銀坐一丁目つやふきん　佐々木玄兵衛

新年初刊の女學雑誌には、附録あり、親に後れし後の述懷と題する「すゞ子女史」の文あり、彼の一夜と題する「山月子」の文あり、人生に寄すてふ無名氏の譯文あり、請ふ一讀せよ。

第三版

百人一首講義

新年の讀書に宜し　歌留多遊びに宜し
遺物に宜し　詠歌に宜し

上製美本　三十五錢　郵税六錢

女學雑誌社

轉居 下六番町六番地女學雑誌社内 **星野愼之輔**
○面接日。月曜日、社内にて。土曜日、本町四丁目自宅にて

産婆 本郷森川町一番地百七十號慈善看護婦會内同居 **玉生くに**

女醫 下六番町六番地明治女學校内にて外來患者を診察す　(校醫) **荻野ぎん**

迎接日 木曜日午後三時後 **巖本善治**

雑誌定價

一冊	六錢	郵税。五厘
十一冊	五拾八錢	郵税。五錢
半年分	壹圓四拾三錢	府外は 壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は 貳圓八拾六錢

(但府内無郵税)
(同前)

東京市麹町區下六番町六番地
發行所　女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三